

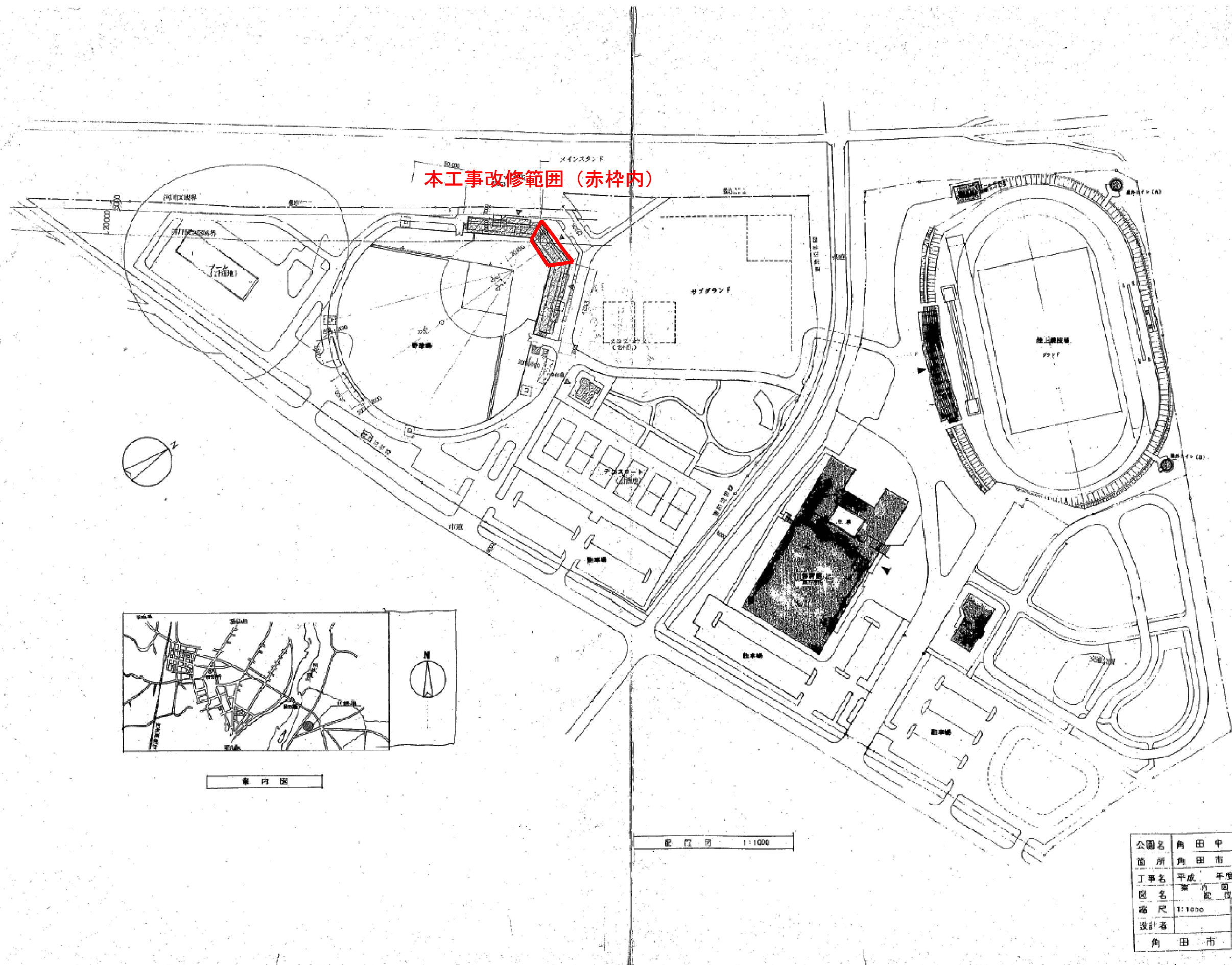
令和7年度(繰)野球場スタンド改修工事(その2)

令和8年9月

角 田 市

株式会社国際開発コンサルタンツ仙台支店

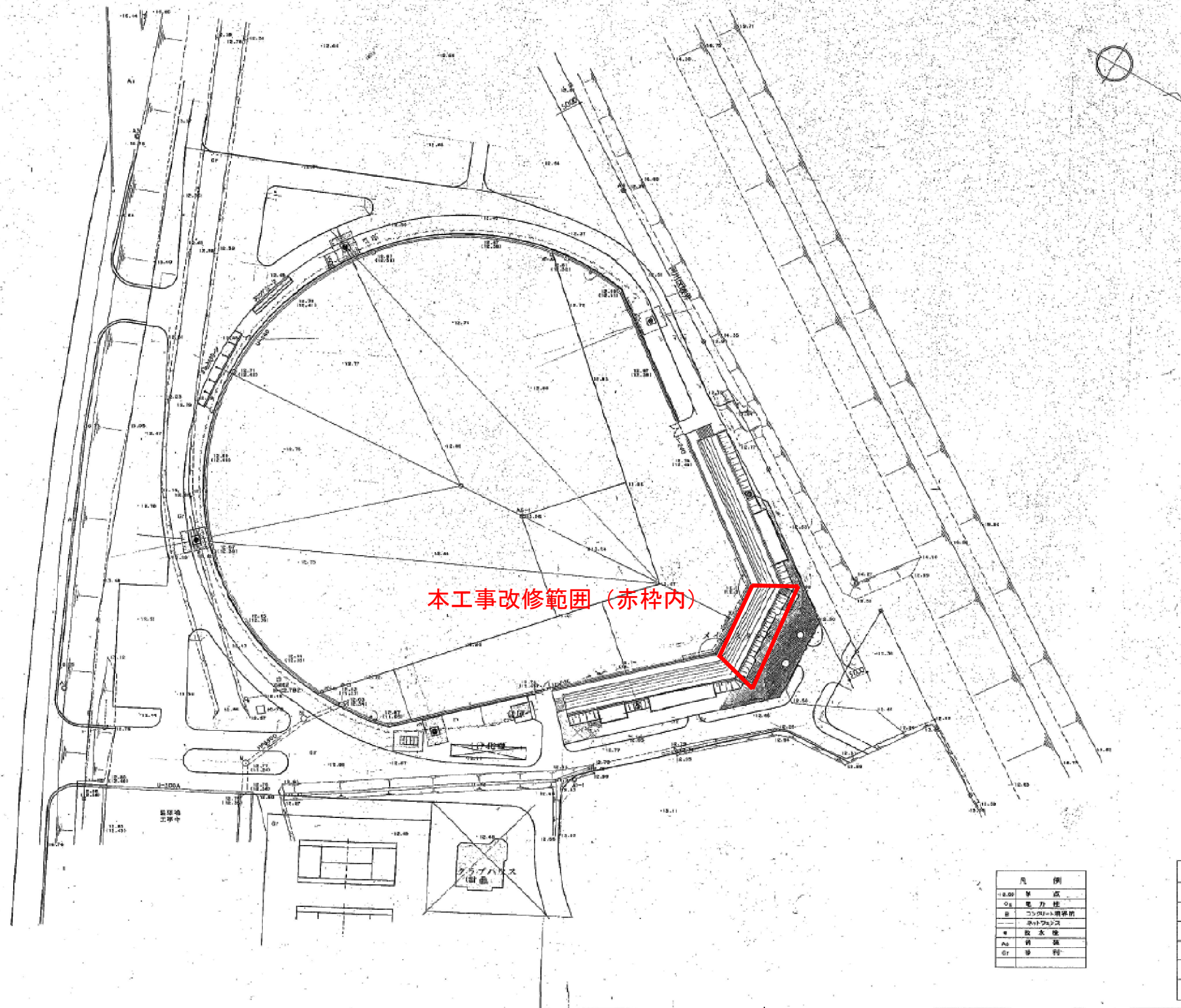
[illegible]



公園名	角田中央公園		
箇所	角田市校野地内		
工事名	平成	年度	工事
図名	案内図		
縮尺	1:1000	縮尺	
設計者	角田市		

既存図

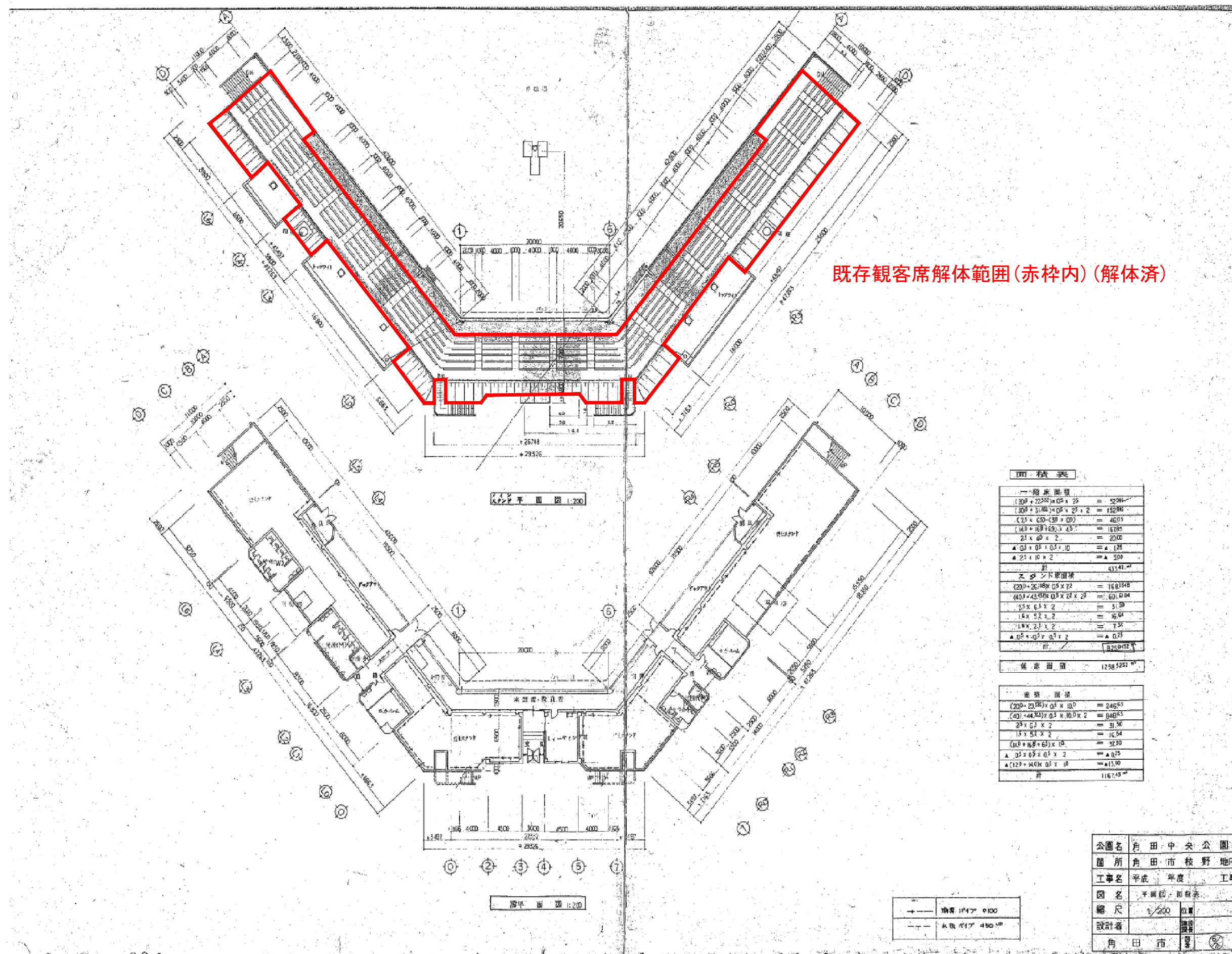
株式会社国際開発コンサルタンツ仙台支店 一級建築士事務所 宮城県知事登録 第25510019号 一級建築士 第320276号 西沢 有美 宮城県仙台市青葉区一番町1-5-25 TEL: (022) 225-6201	校閲者	校閲	作成	作成年月日	工事名称	令和7年度(緑)野球場スタンド改修工事(その2)	図面 番号	003
	作成者			縮 尺	1/1000 (原図)	図面名称	案内図・配置図 (既存図)	



公園名	角田中央公園		
箇所	角田市枝野地内		
工事名	平成	年度	工事
図名	平面図		
縮尺	1:500	位	置
設計者	角田市		
角田市	図		

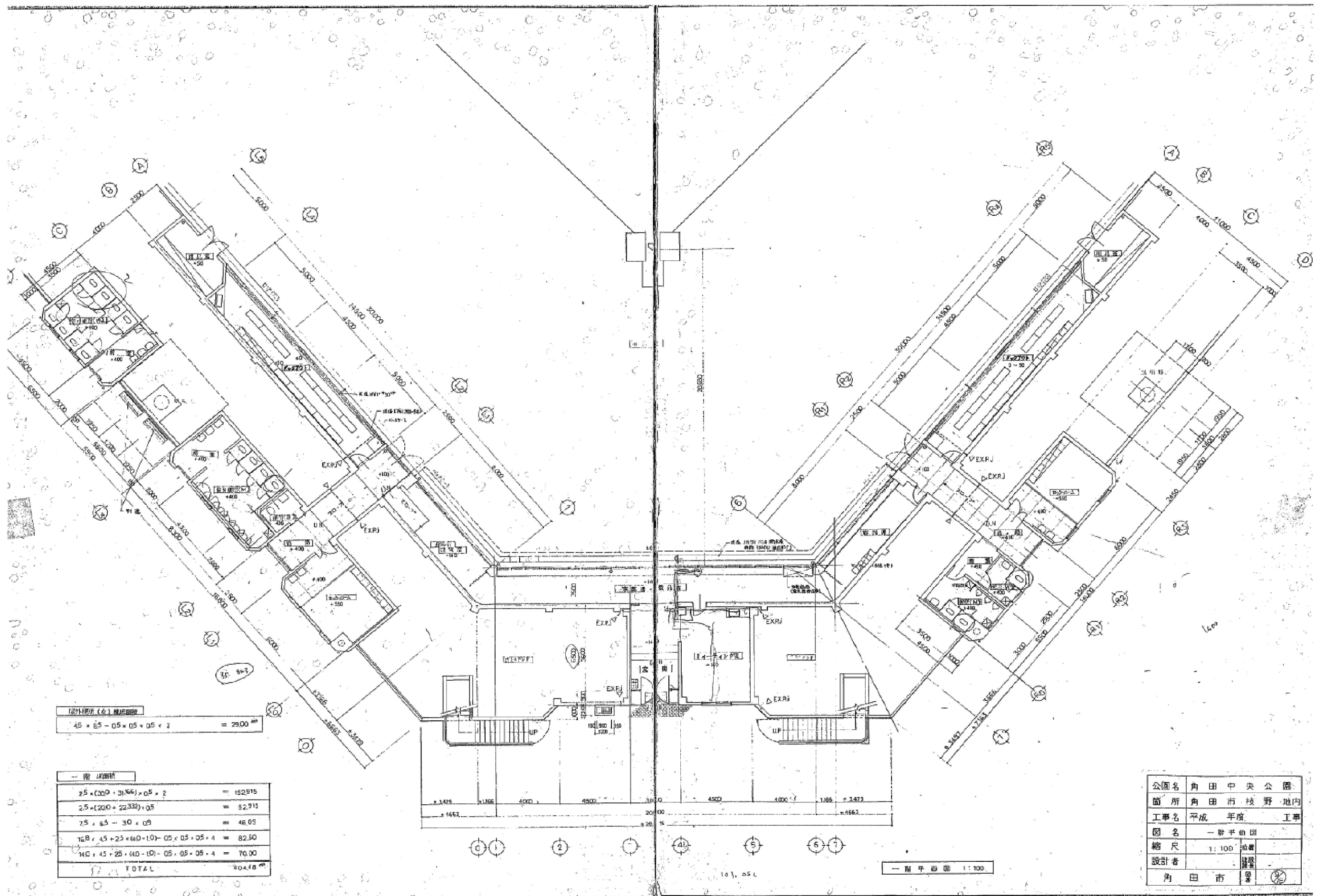
既存図

IDEC	株式会社国際開発コンサルタンツ仙台支店 一級建築士事務所 宮城県知事登録 第25510019号 一級建築士 第320276号 西沢 有美 宮城県仙台市青葉区一番町1-5-25 TEL: (022) 225-6201	校閲者		校閲	作成	作成年月日		工事名称	令和7年度(緑)野球場スタンド改修工事(その2)	図面 番号	004
		作成者				縮尺	1/500 (原図)	図面名称	平面図 (既存図)		

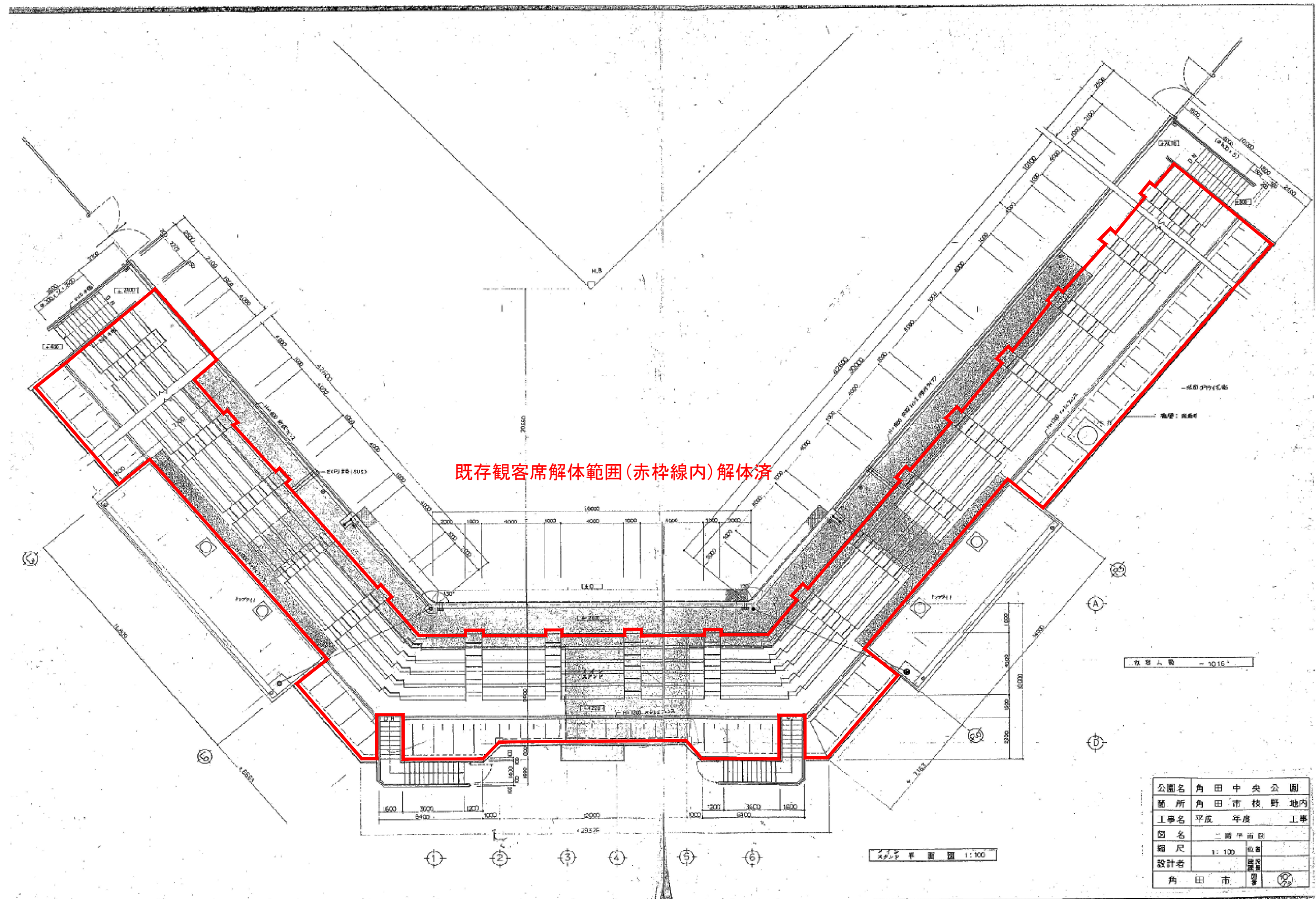


既存図

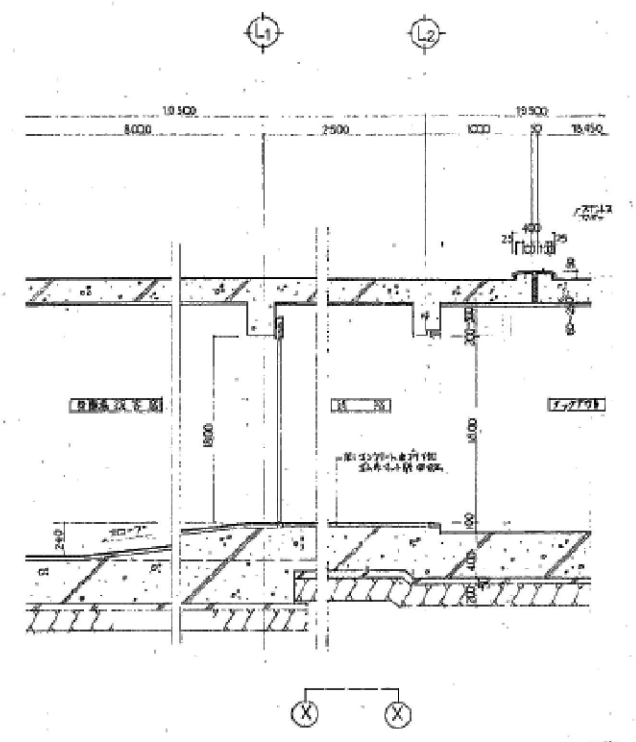
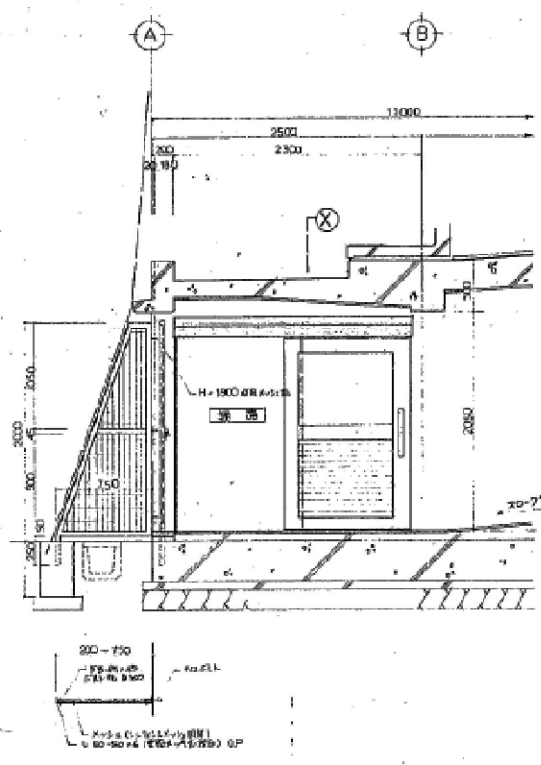
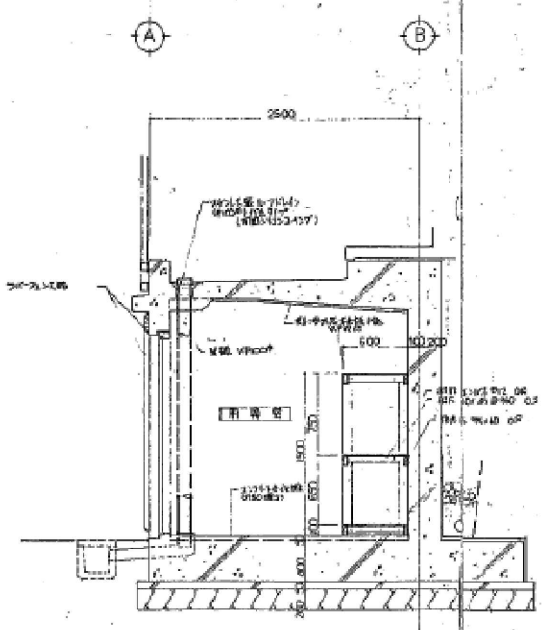
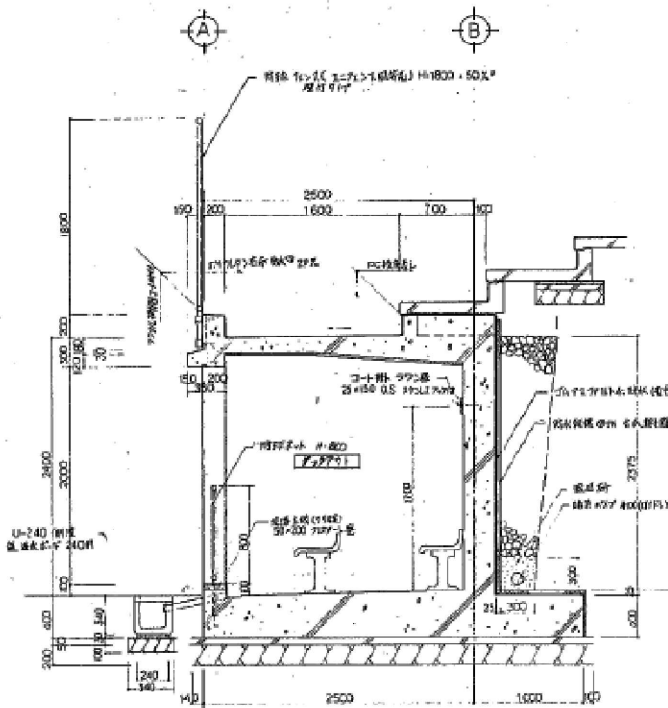
株式会社国際開発コンサルタンツ仙台支店 一級建築士事務所 宮城県知事登録 第25510019号 一級建築士 第320276号 西沢 有美 宮城県仙台市青葉区一番町1-5-25 TEL: (022) 225-6201		校閲者	校閲	作成	作成年月日	工事名称	令和7年度(緑)野球場スタンド改修工事(その2)	図面 番号	005
		作成者			縮 尺	図面名称	平面図・面積表 (既存図)		



既存図

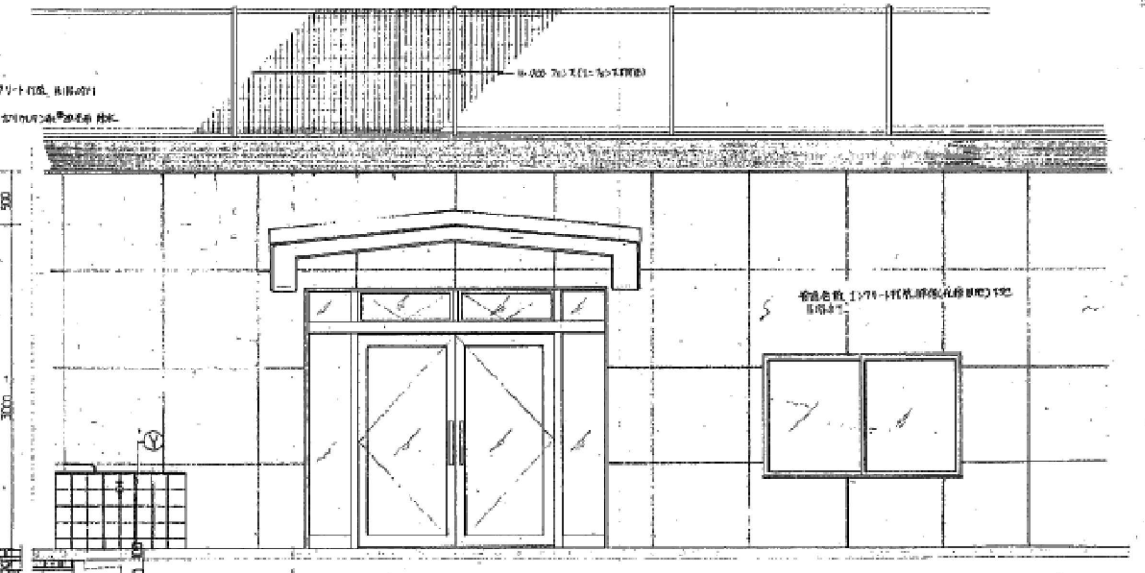
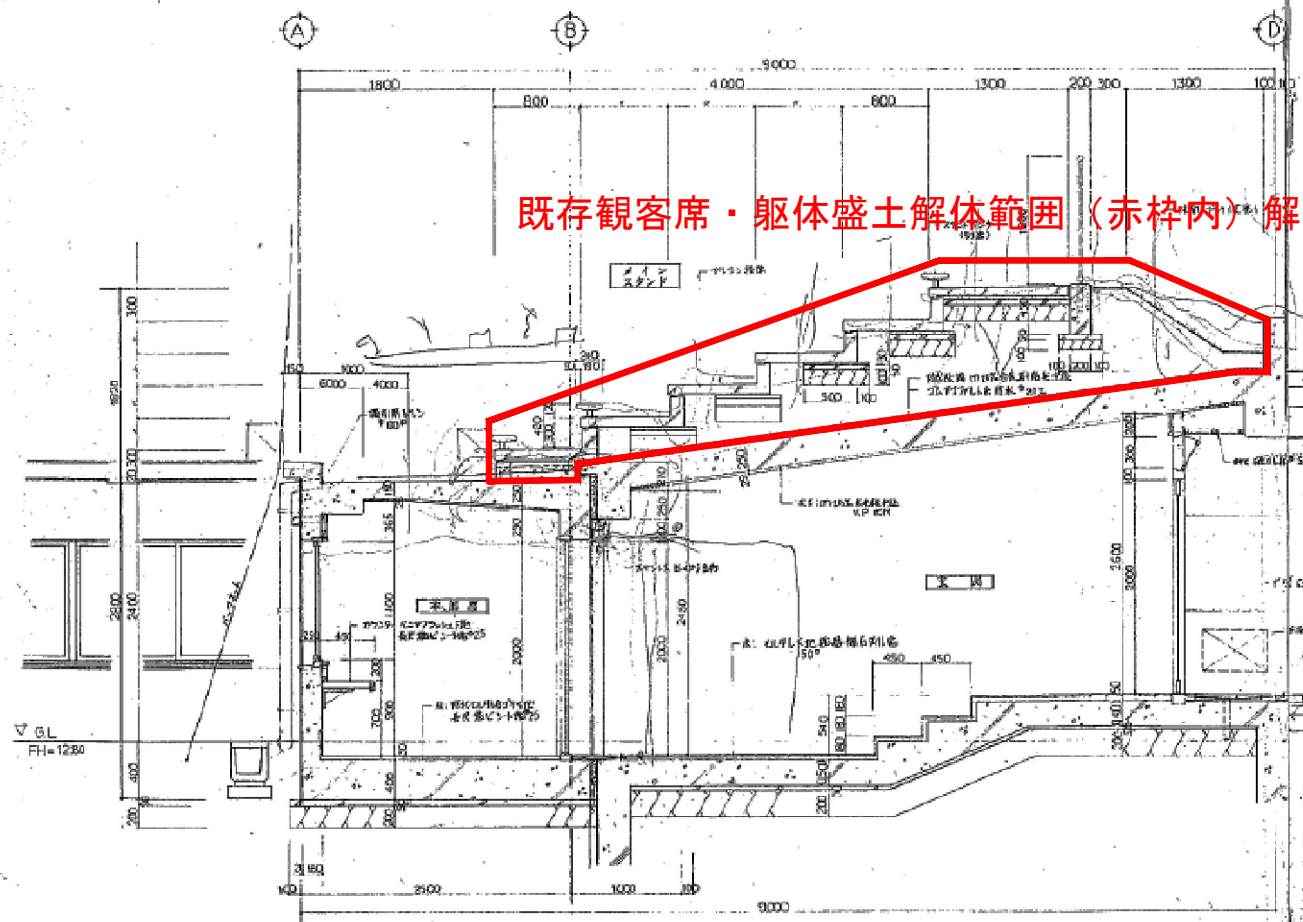


既存図



既存観客席・躯体盛土解体範囲（赤枠内）解体済

既存フェンス解体新設範囲（基礎共）（解体済）



公園名	角田中央公園
箇所	角田市枝野地内
工事名	平成年度 工事
図名	断面詳細図(1)
縮尺	1/30
設計者	角田市 建築課

既存図



構造設計特記標準仕様・その1

※修正箇所は下線を引くこと
適用は □ 印を記入する。

1. 本仕様書の適用範囲

(1) 本仕様の適用範囲

本特記仕様書および配筋標準図は、設計基準強度が 18 N/mm²以上 60 N/mm²以下のコンクリートと、JIS G 3112 に規定する SD295A、SD295B、SD345、SD390 および SD490 の鉄筋コンクリート用棒鋼を用いる高さが 60 m 以下の鉄筋コンクリート造、鉄骨造等建物の設計及び工事に適用する。

(2) 仕様書等の優先順位

設計図書および仕様書の優先順位は以下による。
①特記仕様書
②設計図書（伏図、軸組図、部材リスト、詳細図など）
③標準図（鉄筋コンクリート構造配筋標準図など）
④建築工事標準仕様書・同解説（日本建築学会）等

2. 建築物の構造内容

(1) 建築場所

宮城県角田市枝野青木地内

(2) 工事種別

☐新築

☐増築

☒改築

☐増改築

☐

(3) 構造設計一級建築士の関与

☐法第20条第二号

☐RC造高さ20m超

☐S造4階建以上

☐木造高さ13m超

☐その他

☐

(4) 建物階数

地下 - 階地上 1 階塔屋 階

(5) 構造種別

構造種別	該当階等	架構特徴等
☒ 鉄筋コンクリート造 (RC)	基礎 1 階～ 階	☐ 免震建物
☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)	階～ 階	☐ 制震建物
☐ 鉄骨造 (S)	階～ 階	☐ 塔状建物
☐		☐
☐		
☐		

(6) 主要用途

☐事務所

☐共同住宅

☐病院

☐店舗

☐工場

☐倉庫

☒その他 観覧席

(7) 屋上付属物

キュービクル

kN

☐高架水槽

kN

☐広告塔

kN

☐煙突

m

☐太陽光発電設備

☐

(8) 設計荷重

(a) 主な積載荷重 (N/m²)

室名	床用	架構用	地震用
屋根荷重	0	0	0
観覧席	2900	2600	1600

(b) 1次設計用地震力

Co = 0.2 Z = 1.0 Rt = 1.0 K (地下) = 0.1

(c) 風荷重

地表面粗度区分 基準風速 Vo = m/sec

(d) 特殊の荷重及び仕上材

☐エレベーター

kN

☐受水槽

kN

☐エスカレータ

☐

☐

(9) 構造設計ルート

X方向ルート 1 - () Y方向ルート 1 - ()

(10) 一次設計用層間変形角

X方向 1 / 200 rad Y方向 1 / 200 rad

(11) 付属工事

☐門扉

☐擁壁

☐駐車場

☐機械式駐車場

☐

(12) 特定天井

☐有

☒無

☐

(13) 屋根、床、壁

種類	型式 厚 その他	使用箇所	仕様・構法
A L C版 (JIS A 5416)	厚 -	☐ 壁 ☐ 床版	☐ スライド ☐ ボルト止め
押出し成型セメント版		☐ 壁 ☐ 床版	☐ ロッキング ☐
□ハーフPca版 ☒ Pca版	厚 100～120	☐ 壁 ☒ 床版	☐
金属屋根 ガルバリウム鋼板	厚	☐ 屋根 ☐	☐
特殊デッキプレート	型式 厚	☐ 屋根 ☐ 床版	☐ 大臣認定 (BCJ評定-ST0076-07)

3. 使用建築材料表・使用構造材料一覧表

(1) コンクリート (レディーミクストコンクリート JIS Q 1001, JIS Q 1011, JIS A 5308)

適用箇所	設計基準強度 F c = N/mm ²	品質基準強度 F q = N/mm ²	スランプ cm (スランブフロー)	比重 γ = kN/m ³	備考
階					
柱	☐	☐	☐		
梁	☐	☐	☐		
壁	☐	☐	☐		
床版	☐	☐	☐		
柱	☐	☐	☐		
梁	☐	☐	☐		
壁	☐	☐	☐		
床版	☐	☐	☐		
柱	☐	☐	☐		
梁	☐	☐	☐		
壁	☐	☐	☐		
床版	☐	☐	☐		
基礎	☐	☐	☐		
土間コンクリート	☒ 24	24	15	23	※本仕様適用外
捨てコンクリート	☒ 18	18	15	23	※本仕様適用外
セメントの種類	☒ 普通ポルトランドセメント ☐ 中熱ポルトランドセメント ☐ 低熱ポルトランドセメント				
細骨材の種類	☐ 砂 ☐ 山砂 ☐ 砕砂				
粗骨材の種類	☐ 砂利 ☒ 碎石				
水の区分	☐ 水道水 ☒ 地下水 ☒ 工業用水				
構造体コンクリート強度を 保証する材齢	材齢 (☒ 28日 ☐ 56日 ☐ 91日)				
養生 (☒ 標準 ☐ 現場水中 ☐ 現場封かん)					
単位水量	☒ 185 kg/m ³ 以下 ☐ 175 kg/m ³ 以下				
単位セメント量	☒ 270 kg/m ³ 以上				
混和剤	☒ AE減水剤 ☐ 高性能減水剤 ☐				
空気量	☒ 4.5 % 以下 ☐ 3.0 % 以下				
塩化物量	☒ 0.3 kg/m ³ 以下				
水セメント比	☒ 65 % 以下 ☐ 50 % 以下				

(2) コンクリートブロック (□ JIS A 5406)

☐ A種 ☐ B種 ☐ C種 厚 ☐ 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 190 使用箇所 (☐)

(3) 鉄筋

鉄筋	種類	使用径 mm	使用箇所	備考
異径鉄筋 (JIS G 3112)	☒ SD295A	D10～D16	基礎・土間コン	☒ 重ね継手
	☐ SD295B			☐ ガス圧接継手
	☐ SD345			☐ 溶接継手
	☐ SD390			☐ 機械式継手
	☐ SD490			☐
	☐			☐ 機械式定着工法
高強度せん断補強筋	☐ 685			☐ 大臣認定番号 MSRB-
	☐ 785			
	☐ 1275			
	☐			
溶接金網 (JIS G 3551)	☐			
	☐			

注1) SD490をガス圧接する場合は施工前に試験を行うこと。
注2) 各継手の使用詳細については本仕様その2の9、(2)鉄筋の項の鉄筋継手の項の□にて表示すること。

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	JIS規格・認定番号等
☐ SN400A ☐ SN400B ☐ SN400C		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3136
☐ SN490B ☐ SN490C		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3136
☐ SS400 ☐ SS490		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3101
☐ SM400A ☐ SM490A		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3106
☐ BCR295 ☐ BCP235 ☐ BCP325		☐ 有 ☐ 無	MSTL-0142_0495_0198
☐ STKR400 ☐ STKR490		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3466
☐ SSC400		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3350
☐ SNR400		☐ 有 ☐ 無	
☐ STK400		☐ 有 ☐ 無	
溶接材料			JIS Z
☐ STKN490B		☐ 有 ☐ 無	JIS G 3475

(5) ボルト等

☐ 高力ボルト

☐ F10T (JIS B1186)

☐ S10T 大臣認定番号 () (☐ M16、☐ M20、☐ M22、☐ M24、☐)

☐ 溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T 大臣認定番号 () (☐ M16、☐ M20、☐ M22、☐ M24、☐)

☐

☐ ボルト (JIS B1180) M12 ☐ 4.8 (4T) ☐

☐ アンカーボルト

☐ M

L = mm

ナット (☐ シングル、☐ ダブル)

☐ M

L = mm

ナット (☐ シングル、☐ ダブル)

☐ M

L = mm

ナット (☐ シングル、☐ ダブル)

☐ M

L = mm

ナット (☐ シングル、☐ ダブル)

☐ 頭付スタッドボルト

φ =

L = mm

使用箇所 (☐ 柱 ☐ 大梁 ☐ 小梁)

φ =

L = mm

使用箇所 (☐ 柱 ☐ 大梁 ☐ 小梁)

4. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

☒ 有 (☒ 敷地内 ☐ 近隣) ☐ 無 (調査計画 ☐ 有 ☐ 無)

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	☒		静的貫入試験		
水平地盤反力係数の測定			土質試験		
試験堀 (支持層の確認)			平板載荷試験		
スウェーデン式サウンディング	☒		現場透水試験		

注) 上記載中の資料が有るもの、調査計画が有るものを○を記入する。
(2) ボーリング標準貫入値、土質構成 (基礎、杭の位置を明記すること)

深度

土質

N 値

標準貫入試験

10 20 30 40 50 60

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

調査地番
宮城県角田市枝野 地内

位置図
地盤調査結果による

107 図面参照

○ 調査地番

○ 位置図

○ 地盤調査結果による

○ 支持地盤、地層及び深さについてのコメント

○ 孔内水位
孔口標高 -4.05m

○ 液状化判定

○ 備考

5. 地業工事

(1) 直接基礎 (既存) ☒ ベタ基礎 ☒ 布基礎 ☐ 独立基礎

試験堀 ☐ 有 ☐ 無

深さ GL - 0.8 m、支持層 - 砂層、長期許容支持力 50 kN/m² 載荷試験 ☐ 有 ☐ 無

(2) 地盤改良 ☐ 浅層混合処理工法 ☒ 軽量地盤置換工法 ☐ 柱状砕石地盤補強工法

深さ GL - m、長期許容支持力 GLレベル 80 kN/m² 盛土天端レベル 30 kN/m² 載荷試験 ☐ 有 ☒ 無

注) 「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針：日本建築センター2002」を参照とする。

(3) 杭基礎

杭種	材料	施工法	備考
○ 場所打ちコンクリート杭	コンクリート F c N/mm ² スランプ cm 以下 セメント量 k g / m ³ 単位水量 k g / m ³	☐ オールケーシング ☐ リバースサキュレーション ☐ アースドリル ☐ 掘削杭 ☐ 拡張杭 ☐ 鋼管補強杭 ☐ ☐ 深礎 (☐ 手堀 ☐ B H) ☐ 機械掘	認定 第 年 月 日

杭仕様 ☐ 施工計画書承認 ☐ 杭施工結果報告書

試験杭 (☐ 有 ☐ 無) (☐ 打ち込み・☐ 載荷・☐ 孔壁測定) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による。
☐ 日本建築学会「JASS6 2015年版」 「鉄骨精度検査基準」 「鉄骨工事技術指針」
☐ 一社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
☐ 鉄骨製作管理技術者登録機構「実合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書
☐ 認定または登録工場 (大臣認定 S H M R J グレード 都登録 T1 T2 T3 ランク)
☐ 材料規格証明書※、または試験成績書
☐ 鋼材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ 頭付スタッド
※一社) 日本鋼構造協会「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート。
☐ 社内検査表 ☐

(3) 工事監理者が行う検査項目
(☐ 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
☐ 現寸検査 ☐ 組立・開先検査 ☐ 製品検査 ☐ 建方検査 ☐

(4) 接合部の溶接は下記によること
☐ 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロ
☐ 鉄骨造等の建築物の工事に關する福島県取扱要綱
☐ 日本建築学会「溶接工作規程、同解説 I、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
☐ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査
☐ 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数				備考
		工場自主検査	第三者受入検査	工事監理者		
☐ 完全溶込み溶接部 (実合せ溶接)	外観検査 (※)	100 % 個	30 % 個	30 % 個	※平成12年建設省告示第1464号第二号による。(目視及び計測)	
☐	超音波探傷試験	100 % 個	30 % 個	30 % 個	(注) 福島県の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する。	
	内質検査 (注)	☐ 硬さ試験	% 個	% 個		% 個
	☐ 示温塗装塗布	% 個	% 個	% 個		
	マクロ試験・その他	個	個	個		
☐	外観検査 (※)	100 % 個	30 % 個	100 % 個		

第三者検査機関名 (県知事登録第 号)

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。

注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと。
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事等に報告すること

☐ 高力ボルトの検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)
軸力導入試験 ☐ 要 ☐ 否 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☐ 否
☐ 一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、共回り等の異常が無いことを確認する。
☐ トルニア形高力ボルトは二次締め後、マーキングのずれとピンテールの破断を確認する。

(6) 防錆塗装
☐ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリート被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、☐ JIS K5621、☐ JIS K5625、☐ JIS K 5674、☐ フォースター (F☆☆☆☆) を使用し、2 回塗り標準とするが、実状に応じて決定すること。
☐ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工事塗装と同じ錆止めペイントを使用し、2 回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料
☐

7. 設備関係

☐ 建築設備の構造および構造体への緊結部分は、構造耐力上安全な構造方法を用いるものとする。
☐ 建築設備の支持構造部および締結金物には、錆止め等、防錆のための有効な措置を講じること。
☐ 建築物に設ける屋上からの突出する水槽、煙突・その他これらの類するものには、風圧・地震力等に対して構造耐力上主要な部分に緊結され、安全であること。
☐ 煙突は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造とすること。
☐ 設備配管は、地震時等の建物変形に追従できること。また、地震力等に対して適切に支持されていること。
☐ 設備機器の架台及び基礎については、風圧・地震力等に対して構造耐力上安全であること。
☐ エレベーター・エスカレーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
☐ また、地震時の層間変位に追従できること。
☐ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
☐ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
☐ 給湯設備は、風圧・土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対し、安全上支障のない構造とすること。
満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対し安全上支障のない構造にして、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

8. その他

☒ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

株式会社国際開発コンサルタンツ仙台支店
一級建築士事務所 宮城県知事登録 第25510019号
一級建築士 第320276号 西沢 有美
宮城県仙台市青葉区一番町1-5-25 TEL: (022) 225-6201

校閲者
作成者

校閲
作成

作成年月日
縮尺

工事名称
図面名称

令和7年度(繰)野球場スタンド改修工事(その2)
構造設計特記標準仕様・その1

図面番号
101

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

d : 異形棒鋼の呼び名に用いた数値 D : 部材の成 R : 直径
@ : 間隔 r : 半径 C : 中心線 a : 部材間の内法距離 ho : 部材間の内法高さ
ST : あばら筋 HOOP : 帯筋 S. HOOP : 補強帯筋

呼び名	d9	D10	d13	D13	d16	D16	d19	D19	d22	D22	d25	D25	d28	D28	d32	D32	d36	D36	d38	D38	d42	D42	D51
表示記号	●	●	×	×	○	○	○	○	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	●	●	●	●	○	○	⊗

2. 鉄筋加工

(1) 鉄筋の折り曲げ加工

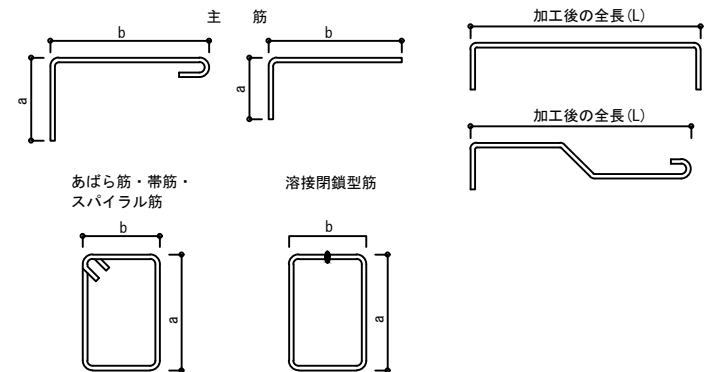
図	折り曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折り曲げ内法直径(D)
	180°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
	135° 90°		D19～D41	4d以上
	90°	SD390	D41以下	5d以上
		SD490	D25以下	5d以上
			D29～D41	6d以上

- [注] (1) dは呼び名に用いた数値とする。
(2) スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
(3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
(4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
(5) 折り曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、工事管理者の承認を得る。
(6) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折り曲げ加工する場合は、事前の鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認した上で、工事管理者の承認を得る。

(2) 加工寸法の許容差

項 目			符 号	許 容 差
各加工寸法 ⁽¹⁾	主 筋	D25以下	a、 b	± 15
		D29以下 D41以下	a、 b	± 20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋		a、 b	± 5
加工後の全長			L	± 20

[注] (1) 各加工寸法及び加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



(3) 鉄筋のあき

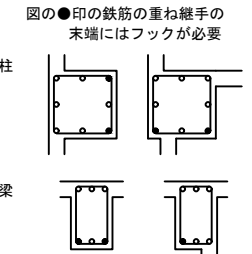
異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25mmのうち最も大きい値。



(4) 鉄筋のフック

a～eに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

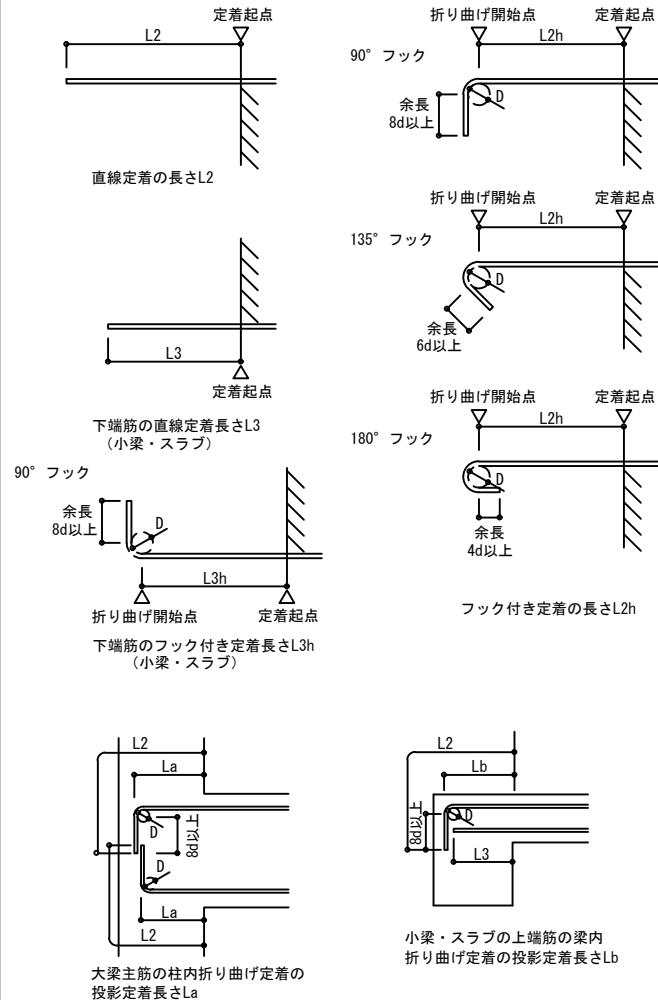
- a. あばら筋、帯筋、および幅止め筋
b. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
c. 柱、梁（基礎梁は除く）の出すみ部分
および下端の両端にある場合の鉄筋（右図参照）
d. 単純梁の下端筋
e. その他、本配筋標準に記載する箇所



(5) 定着長さ

鉄筋種別	コンクリートの 設計基準強度 F _c (N/mm ²)	定 着 の 長 さ						
		一 般				小梁下端筋		スラブ下端筋
		L2 (フックなし)	L2h (フックあり)	La ⁽³⁾	Lb	L3 (フックなし)	L3h (フックあり)	L3 (フックなし)
SD295A SD295B	18	40d	30d	20d	15d	20d	10d	10d かつ 150以上
	21	35d	25d	15d	15d			
	24～27	30d	20d	15d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
	39～45	25d	15d	15d	15d			
SD345	48～60	25d	15d	15d	15d			
	18	40d	30d	20d	20d			
	21	35d	25d	20d	20d			
	24～27	35d	25d	20d	15d			
	30～36	30d	20d	15d	15d			
SD390	39～45	30d	20d	15d	15d			
	48～60	25d	15d	15d	15d			
	21	40d	30d	20d	20d			
	24～27	40d	30d	20d	20d			
	30～36	35d	25d	20d	15d			
SD490	39～45	35d	25d	15d	15d			
	48～60	30d	20d	15d	15d			
	24～27	45d	35d	25d	—			
	30～36	40d	30d	25d	—			
	39～45	40d	30d	20d	—			
SD490	48～60	35d	25d	20d	—			

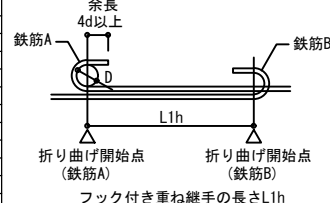
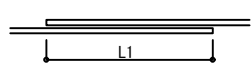
- [注] (1) フック付き鉄筋の定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折り曲げ開始点までの距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
(2) フック部の折り曲げ内法直径D及び余長は、「鉄筋の折り曲げ加工」の表による。
(3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さがL2h確保できない場合は折り曲げ定着とし、全定着長さをL2以上とするとともに、水平投影長さをLa以上とし、余長を8d以上とする。尚、Laの値は原則として柱せいの3/4倍以上とする。
(4) 耐圧スラブの下端筋の定着長は一般定着L2とする。
(5) 梁主筋の柱への定着は 40d とする。



(6) 継 手

■重ね継手

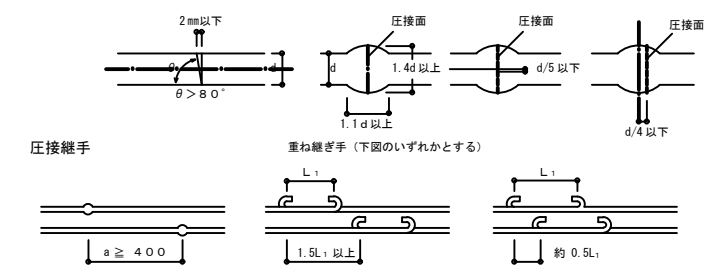
鉄筋種別	コンクリートの設計基準強度 $F_c(N/mm^2)$	重ね継手長さ	
		L1 (フックなし)	L1h (フックあり)
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24～27	35d	25d
	30～36	35d	25d
	39～45	30d	20d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24～27	40d	30d
	30～36	35d	25d
	39～45	35d	25d
SD390	18	50d	35d
	21	50d	35d
	24～27	45d	35d
	30～36	40d	30d
	39～45	40d	30d
SD490	18	50d	35d
	24～27	55d	40d
	30～36	50d	35d
	39～45	45d	35d
	48～60	40d	30d



- [注] (1) 表中のdは、異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
(2) 直径の異なる鉄筋相互の重ね継手の長さは、細い方のdによる。
(3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折り曲げ開始点間の距離とし、折り曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。

■継手に関する注意

1. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。
2. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない。
3. 鉄筋径dの差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない。
4. ガス圧接継手の形状、および継手の配置は下図による。

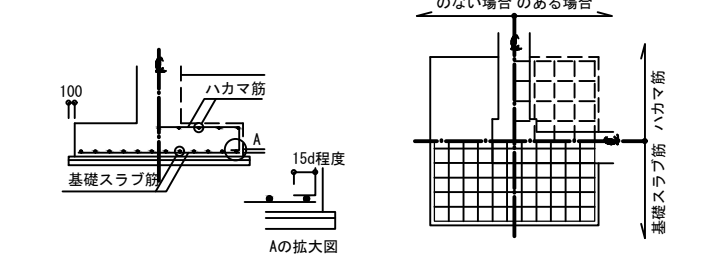


5. 溶接継手および機械式継手を用いる場合は、信頼できる機関の評価を受けたA級継手工法とする。
6. 非破壊検査は工事監理者が承諾した信頼できる検査機関で行うこと。

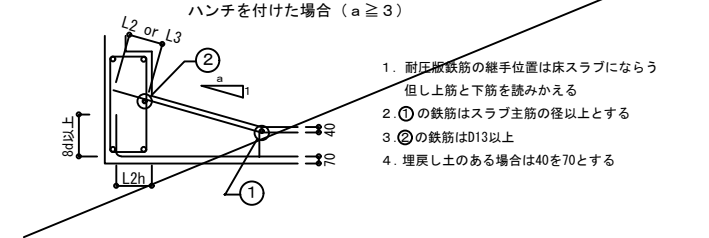
3. 杭・基礎

(1) 直接基礎

①独立基礎



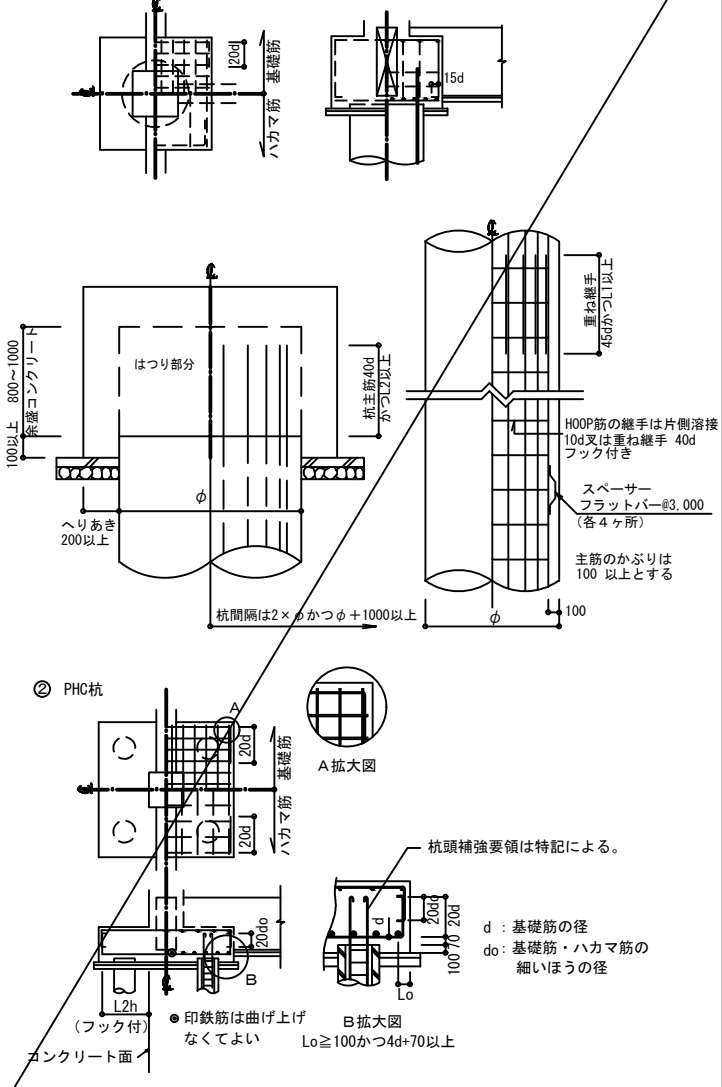
②ベタ基礎



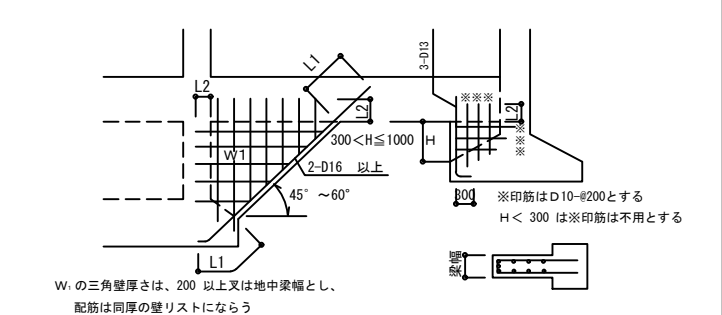
1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう
但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

(3) 杭基礎

① 現場打ち杭



(3) 基礎接合部の補強

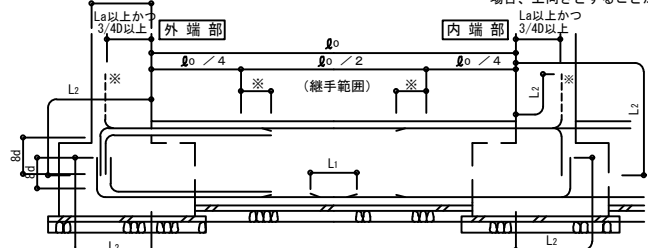


鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

※修正箇所は下線を引くこと

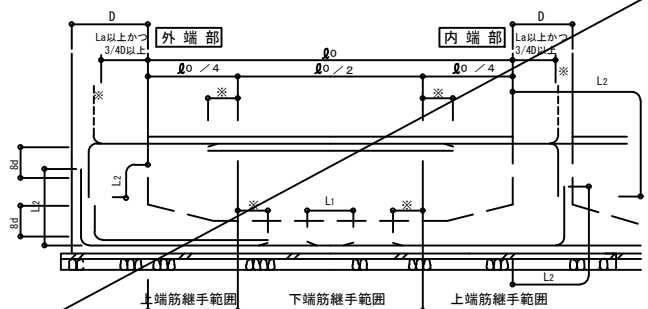
4. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)
(長期荷重が支配的な場合の継手は表6.(2)大梁継手位置とする。)



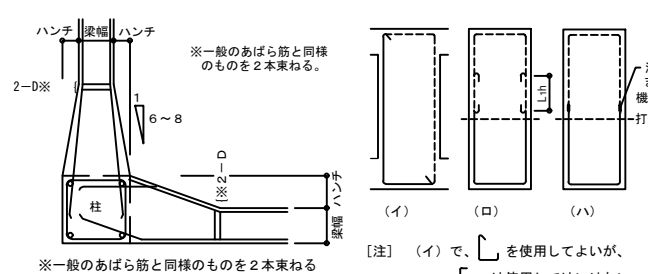
※主筋のカットオフ長さは $Ld/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の表(6)-1による

(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)

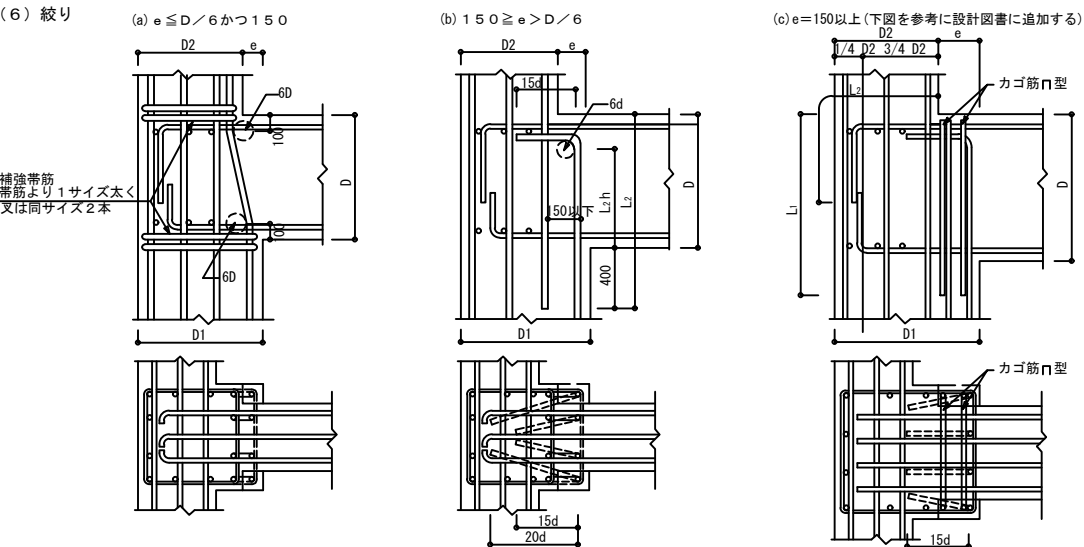


※主筋のカットオフ長さは $Ld/4 + 15d$ を基本とし、特別な長さを要する部分は6.大梁の表(6)-1による

(3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

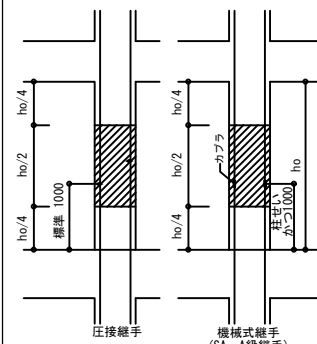


(6) 絞り



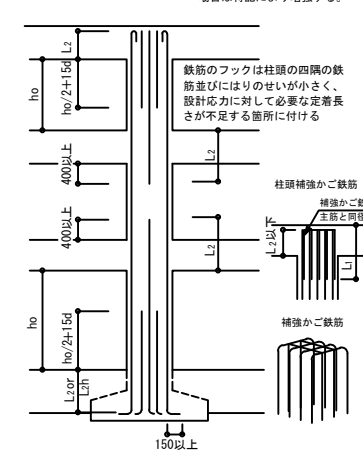
5. 柱

(1) 柱主筋の継手位置

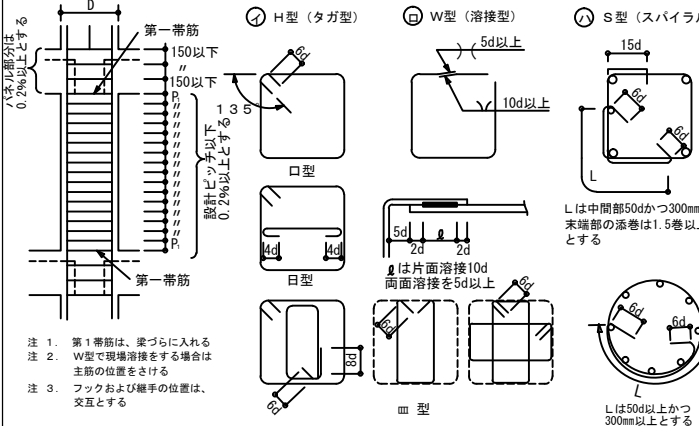


継手の好ましい位置

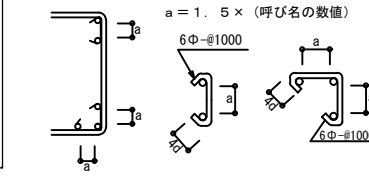
(2) 柱主筋の定着



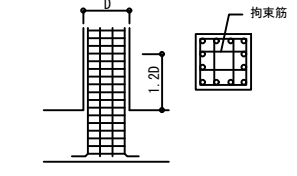
(3) 帯筋



(4) 二段筋の保持

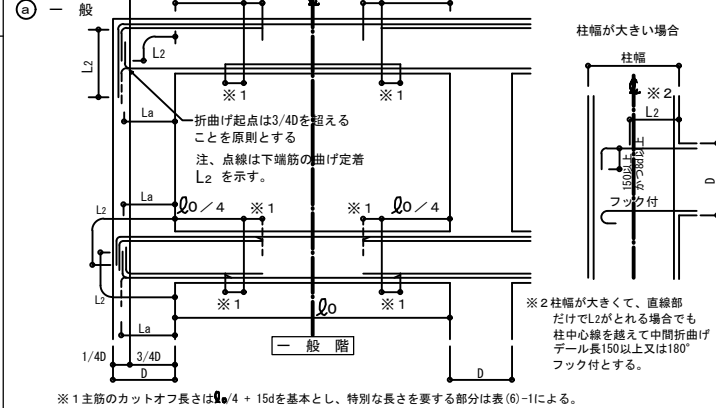


(5) 柱脚部の補強

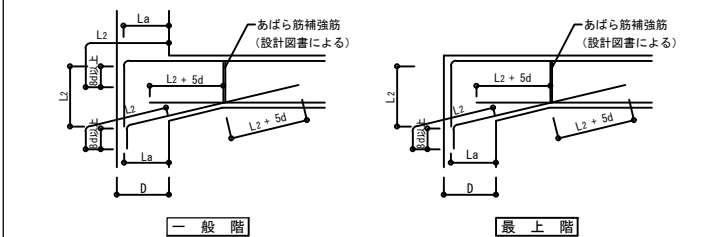


6. 大梁

(1) 定着



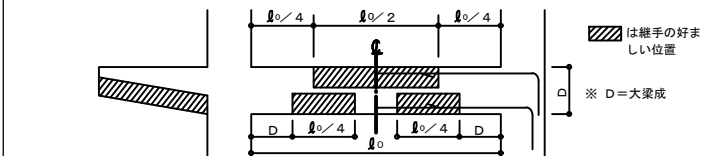
(2) ハンチがある場合



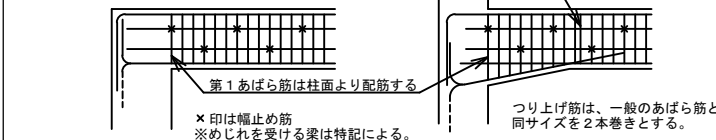
表(6)-1 特別なカットオフ長さを要する部材 (mm)

部材名	$Ld/4$ に加える長さ	部材名	$Ld/4$ に加える長さ

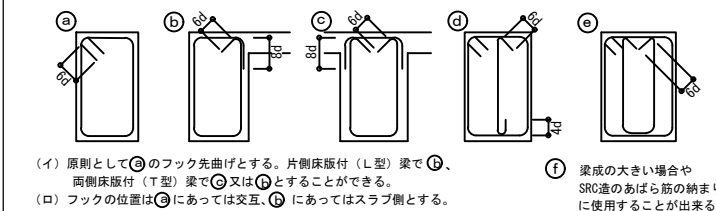
(2) 大梁主筋の継手



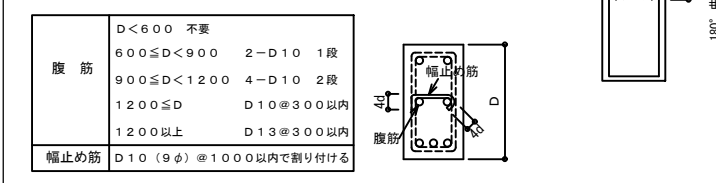
(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置



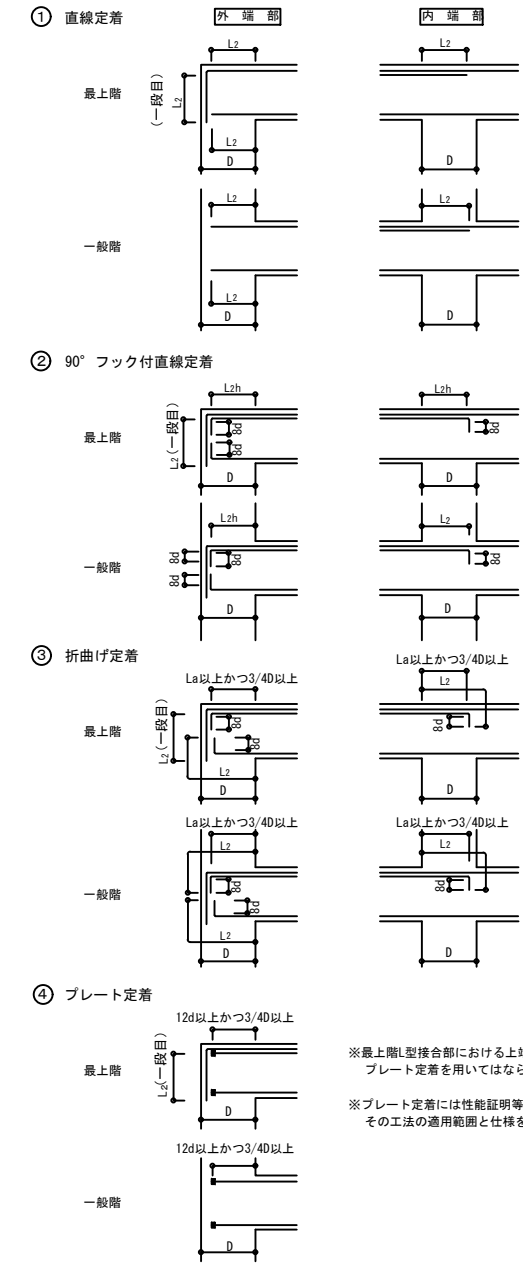
(4) あばら筋の型



(5) 幅止め筋の本数、加工



(6) 梁主筋の定着



※修正箇所は下線を引くこと

8. 床 版

② 片持梁の定着

注) 上端筋の柱内への定着は3/4以上とすること。

立面図

下端筋位置迄
折り下げること

$2/3\phi_0+15d$ 以上
かつ L_2 以上

L_2

$8d$

100以上

先端 端部

ϕ_0

(a) 先端部の範囲とカットオフ位置

平面図

片持梁折り下げ

片持ち梁

あばら筋を入れる

(b) 先端小梁の定着

最上階

一般階

拘束筋 $\square -D10@200$

大梁主筋

L_2

$8d$

L_3h
又は L_a

L_a

L_2

$8d$

L_3h
又は L_a

(c) 隣接する梁がある場合で柱定着
又は、隣接する梁へ定着する場合

(d) 隣接する梁がない場合で柱定着

(1) 床板開口部の補強 (開口の径500以下程度の場合)

床板厚さD	周 囲	斜 め
$D \leq 150$	各2-D13	各1-D13
$150 < D \leq 200$	各2-D13	各2-D13
$200 < D \leq 300$	各2-D19	各2-D16

注) 設備の小開口が連続してある場合は縦、横、斜補強筋とは別に開口によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。

(5) 床板段差

(6) 土間コンクリート

⑤ 軽作業の土間

(7) 釜場

(8) 打継ぎ補強 (ダメ穴打継面について)

- 設計配筋間隔の1/2ピッチ 長さ2L₁以上
- 無筋部分D10-@200 長さ800以上

(1) 定 着

(3) 手摺、パラベット

パラベット

手摺

(但し、 $H > 800$ 以上の場合、設計図による)

(4) コンクリートブロック帳壁 一般の場合

(5) 耐震壁端部の納まり

鉄筋径および間隔は壁筋と同径、同ピッチ以上とし、壁筋に135°フックを設けた場合のLは15dとする。壁筋にフックを設けない場合のLはL2とする。

注) $h \leq 25$ t かつ 3500 以下とする。但し直行方向 25 t 以内に壁、又は柱がある場合は除く
注) h はコンクリートブロック段数調節法とする。但し、 $200 \leq h \leq 400$
注) 継手部は必ずモルタルを充填すること

注) 補強筋はEW150の場合3-D13@100シングル
EW180～200の場合4-D13@100シングル
EW25以上の場合4-D16@100ダブルとす

10. 柱、梁増打コンクリート補強（増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと）

(1) 柱

ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
ハッチ部分の面積 $A \text{ cm}^2$

補強タテ筋	
$A < 500$	$500 \leq A < 1000$
3-D 16	4-D 16

● 150以上の増打ちは図示による。
● 増打ち50以下は補強なし。
● ※柱H0Pと同径、同ピッチとする。

a 及び $a' \leq 150$ ●印は補強筋を示す

(2) 梁

● 補強筋は、梁主筋の1段落し径 (D 16以上) とする。
● あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
● 腹筋 D 10 ピッチは、梁の腹筋と合せる。
● $B \geq 400$ の場合は補強筋を3本とする。
● 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
● ハッチ部分は増打コンクリートを示す。
● 150以上の増打ちは図示による。
● 増打ち50以下は補強なし。

$a \leq D/7$ かつ $a \leq 150$

●印は補強筋を示す。

1 1. 梁貫通孔補強 (開口補強筋については計算により確認すること)

(1) 設置可能な範囲

梁端部（スパン $l_0/10$ 以内かつ2D以内）は原則として避ける

望ましい範囲

$D/3$

$l_0/4$

l_0

D

$(\phi_1 + \phi_2) \times \frac{3}{2}$ 以上

ϕ_1

ϕ_2

貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は設計者又は工事監理者と打合せのこと。

(2) 既製品（指定条件と異なる場合は、設計者又は工事監理者と打合せのこと）

口製品名

施工前に計算書を提出し、承認を得ること。

設計時に使用する評価取得品については計算書を提出する事。

校問者

作成者

校閱

作成

作成年月日

縮尺

N.S.

工事名称

图面名称

令和7年度(繰)野球場スタンド改修工事(その2)

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)

図面
番号

地盤置換工法『コロンプス+』特記仕様書

技術審査証明 BL審査証明-054

1.工法概要

本工法は、基礎下地盤を掘削し、軽量地盤（ジオフォーム）に置換え軽量地盤を構築する。
置換される土や盛土との比重差分、増加応力を軽減し建物の沈下を抑制する。
軽量地盤は、建築設計図に表記ある資料を確認し、物性の規格と数量、形状を設計されたものを使用する。
施工は、ジオフォーム施工図と施工手順書に従って関連する工事と連係して工事を行う。

使用する材料の物性、規格、強度

[表－1] 軽量地盤材の物性・規格

主な効果	荷重軽減（軽量盛土・かさ上げ）			
材料名	ジオフォームEPS ブレカット品			
単位体積重量 (kg/m ³) ³	30	25	20	16
密度 (kg/m ³) ³ ※1	30 ±2.0	25 ±1.5	20 +1.5 -1.0	16 ±1.0
許容圧縮強さ (kN/m ²) ² ※2、3	90.0	70.0	50.0	35.0

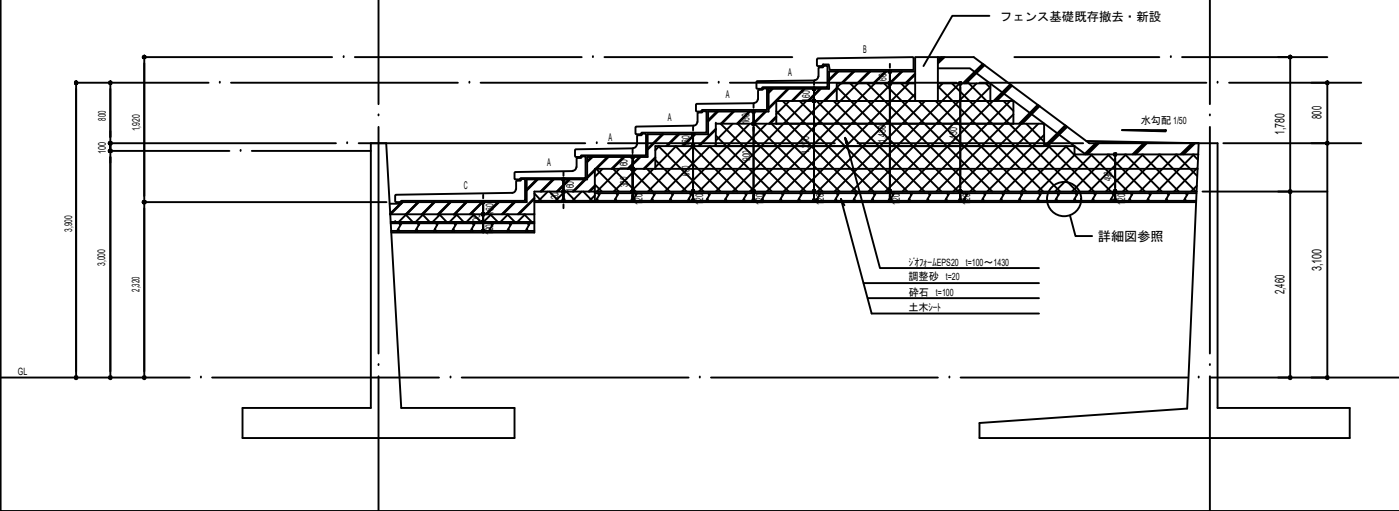
1 試験方法 JIS K7222 ※2 試験方法 JIS K7220 3 地震時は許容圧縮応力度の割増係数 1.5

[表－2] 耐油耐薬品性

薬品の種類	反応	薬品の種類	反応
塩 酸	○	無 機 塩	○
硫 酸	○	セメント	○
硝 酸	○	海 水	○
水酸化ナトリウム	○	アスファルト	× 1
水酸化カリウム	○	L P G	○
動・植物油	○	L N G	○
ガソリン	×	水性塗料	○
重 油	△	油性塗料	×
グリース	○	消毒液	△
脂肪族炭化水素	△	肥料(N、P、K)	○
芳香族炭化水素	×	除草剤	○※2
ハロゲン族炭化水素	×	殺虫剤	○※2
ケトン類	×	殺菌剤	○※2
エステル類	×	エーテル類	○

(○：安定 △：膨潤 ×：粘度が低い場合 ※希釈状態)

2.軽量地盤設計



2.2 軽量地盤材

部位	厚さ (mm)	材料名	密度 (kg/m ³) ³	圧縮強さ (kN/m ²) ²	使用材料
上段		ジオフォームEPS	16	35.00	
			20	50.00	
			25	70.00	
			30	90.00	
下段		ジオフォームEPS	16	35.00	
			20	50.00	
			25	70.00	
			30	90.00	
中段		ジオフォームEPS	16	35.00	
			20	50.00	
			25	70.00	
			30	90.00	

その他材料	厚さ	強度
土木シート	0.2mm以上	引張 1000N/5cm(kg)
調整コンクリート	30mm以上	FC-18

3.一般事項

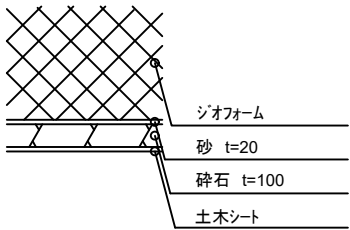
工事実施前に、施工計画書を工事監理者に提出する。
施工計画書：施工業者は、敷地条件を考慮した計画の作成。
施工管理・品質管理・安全管理・工程管理を行う。

施工計画書には下記の事項を具体的に記述する。

施工計画書記述事項

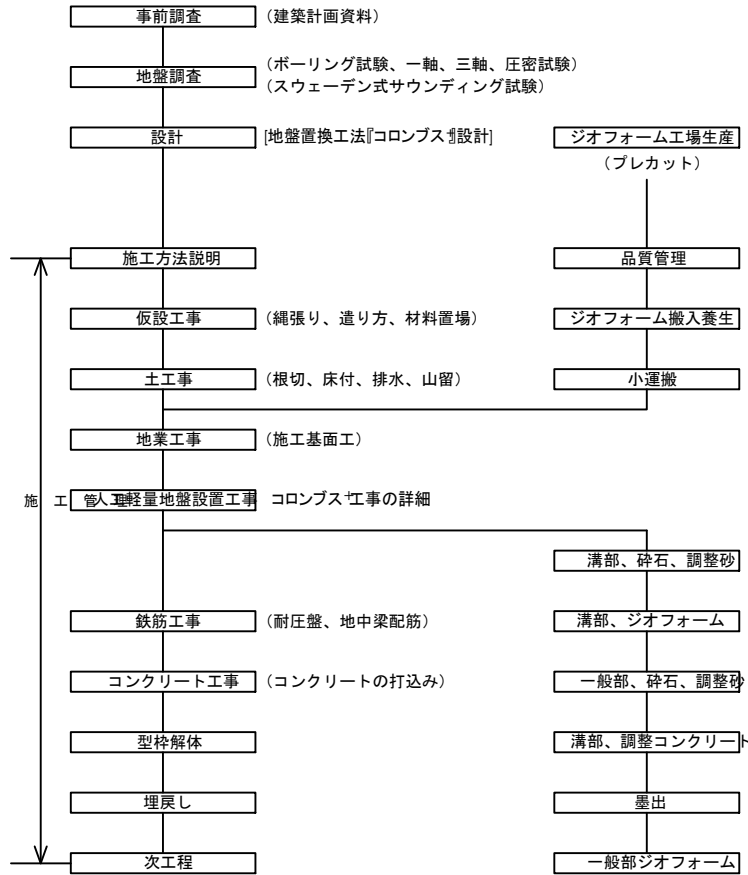
記述事項	記述内容
工事概要	工事名称、工事場所、受注形態、工程表
現場組織表	施工組織をフロー形状に示す
施工方法	施工フローチャート、施工準備手順、材料搬入計画
施工管理	施工管理基準と施工管理手法、工程管理、工事写真管理
品質管理	品質検査の方法及び不適合管理方法、管理記録
安全衛生管理	安全管理体制、施工環境による留意点、重点施策等

詳細図



4.施工要領

施工に関しては、[図－1]に関連フローを含めた施工フローを示す。
施工上の注意事項を[表－3]に示す。



[図－1] 地盤置換工法『コロンプス+』関連工事を含めたフロー

[表－3] 施工上の注意事項

項 目	注意事項
雨天時	基面に水が浮く雨天時、降雪時の施工は作業中止とする。
排水計画	湧水、降雨などによって軽量地盤材が浮上らないように釜場を設け排水をする。
強風時	強風時は軽量地盤材が飛散しないよう固定またはネットなどで被っておく。
火 気	施工時の火気、ストックヤードにおいての火気使用は厳禁とする。やむを得ず、使用する場合は現場責任者の許可を得る。
気 温	軽量地盤敷設気温は特に定めない。
養 生	施工が完了した区域は十分な養生を行い、軽量地盤材が損傷を受けないようにする。 ・鉄筋工事に使用するスラブ・梁下用スペーサーには十分な強度・面積を有するプレートを取付け、軽量地盤材を保護しなければならない。

5.施工管理記録

施工者は、担当検査員から『コロンプス+』に関する、管理並びに施工方法の指導を受け、検査報告書①に記載し、担当検査員に提出する。



株式会社国際開発コンサルタンツ仙台支店
一級建築士事務所 宮城県知事登録 第25510019号
一級建築士 第320276号 西沢 有美
宮城県仙台市青葉区一番町1-5-25 TEL: (022) 225-6201

校閲者

作成者

校閲

作成

作成年月日

縮 尺

N・S

工事名称

図面名称

令和7年度(緑)野球場スタンド改修工事(その2)

地盤置換工法特記仕様書

図面
番号

106

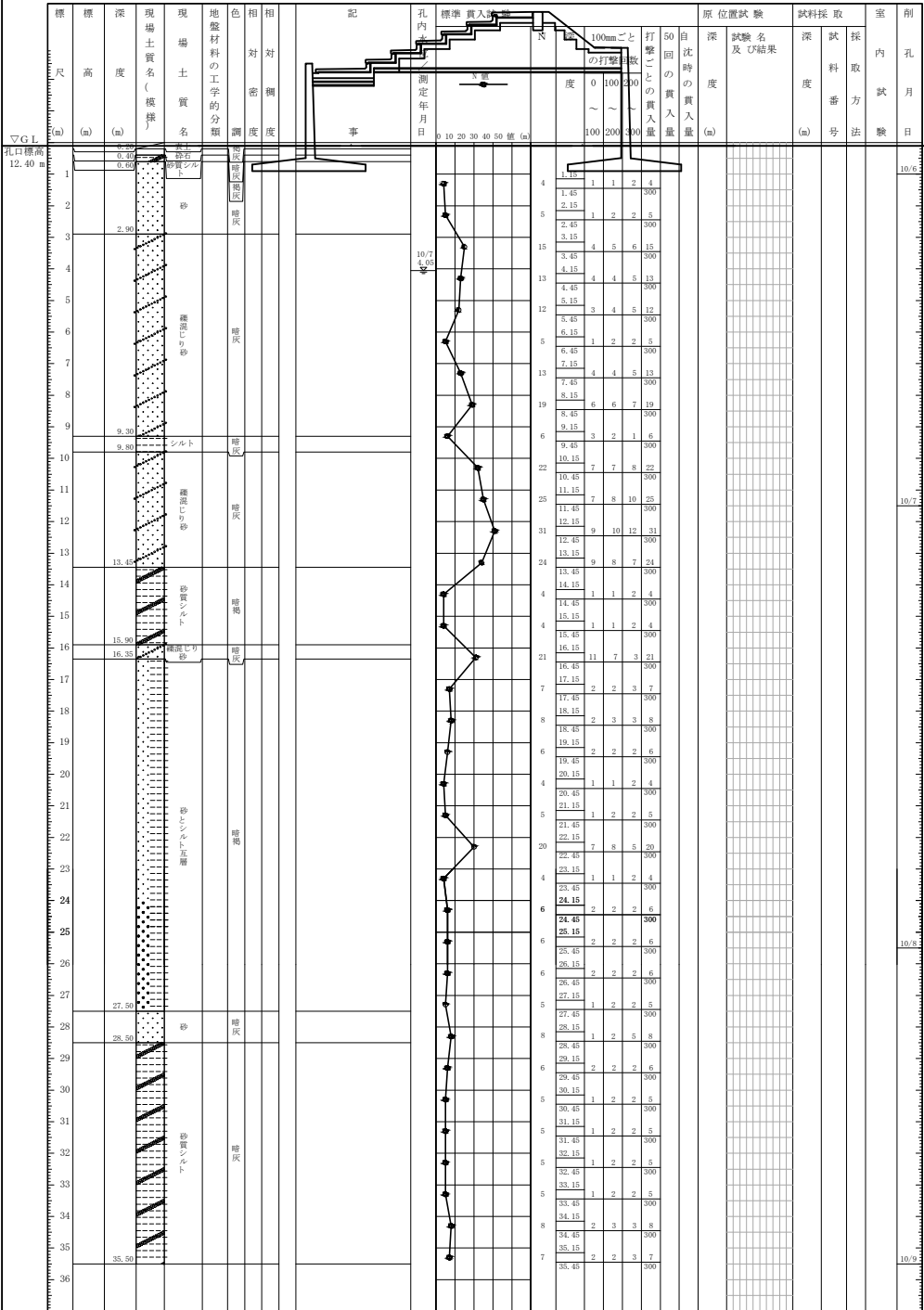
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 令和7年度 野球場スタンド改修実施設計業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象

ボーリング名	B-1		調査位置	宮城県角田市枝野青木地内		北緯	
発注機関	角田市		調査期間	令和07年10月06日～令和07年10月 日		東経	
調査業者名	(株)国際開発コンサルタンツ		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高 12.50 m		角 度	方 位	地盤勾配	使用機種	エンジン	
総削孔長 35.50 m		度	位			ポンプ	



土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 令和7年度 野球場スタンド改修実施設計業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象

ボーリング名	B-2		調査位置	宮城県角田市枝野青木地内		北緯	
発注機関	角田市		調査期間	令和07年10月14日～令和07年10月17日		東経	
調査業者名	(株)国際開発コンサルタンツ		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高 13.09 m		角 度	方 位	地盤勾配	使用機種	エンジン	
総削孔長 20.50 m		度	位			ポンプ	



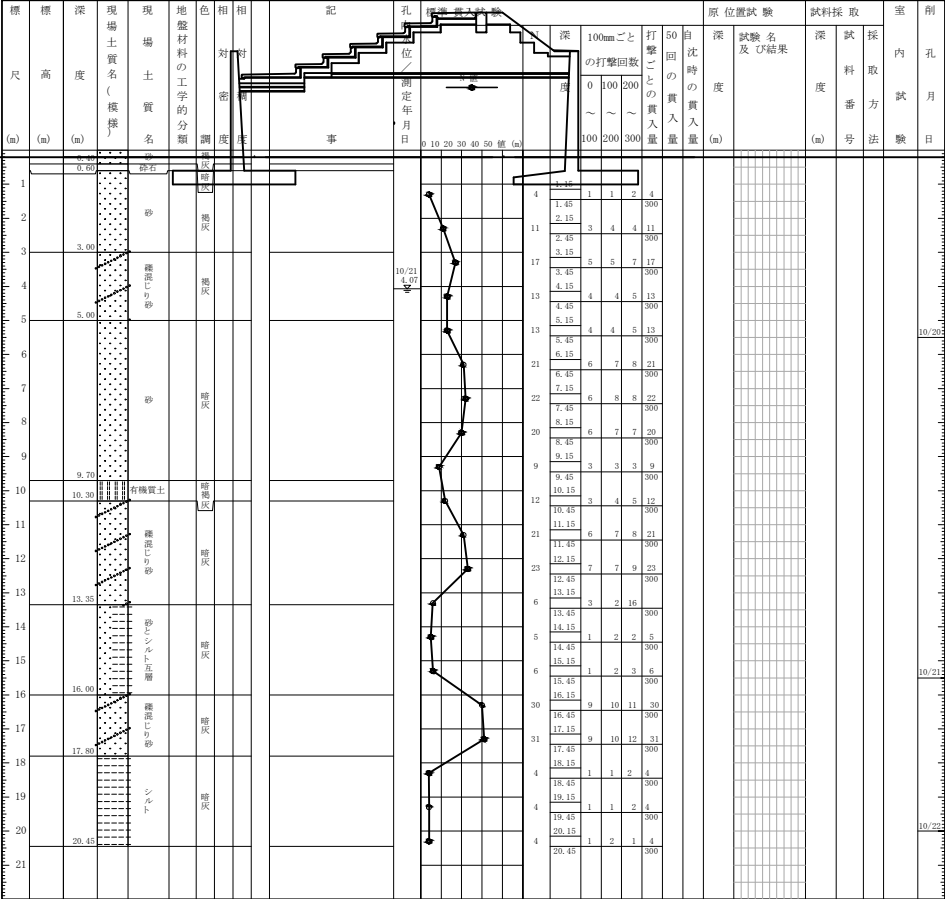
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 令和7年度 野球場スタンド改修実施設計業務委託

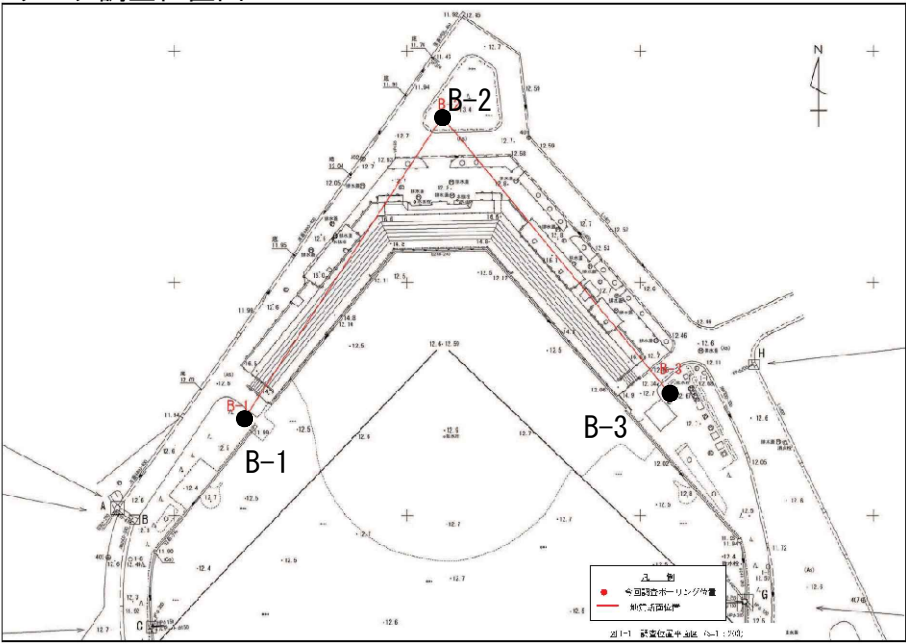
事業名または工事名

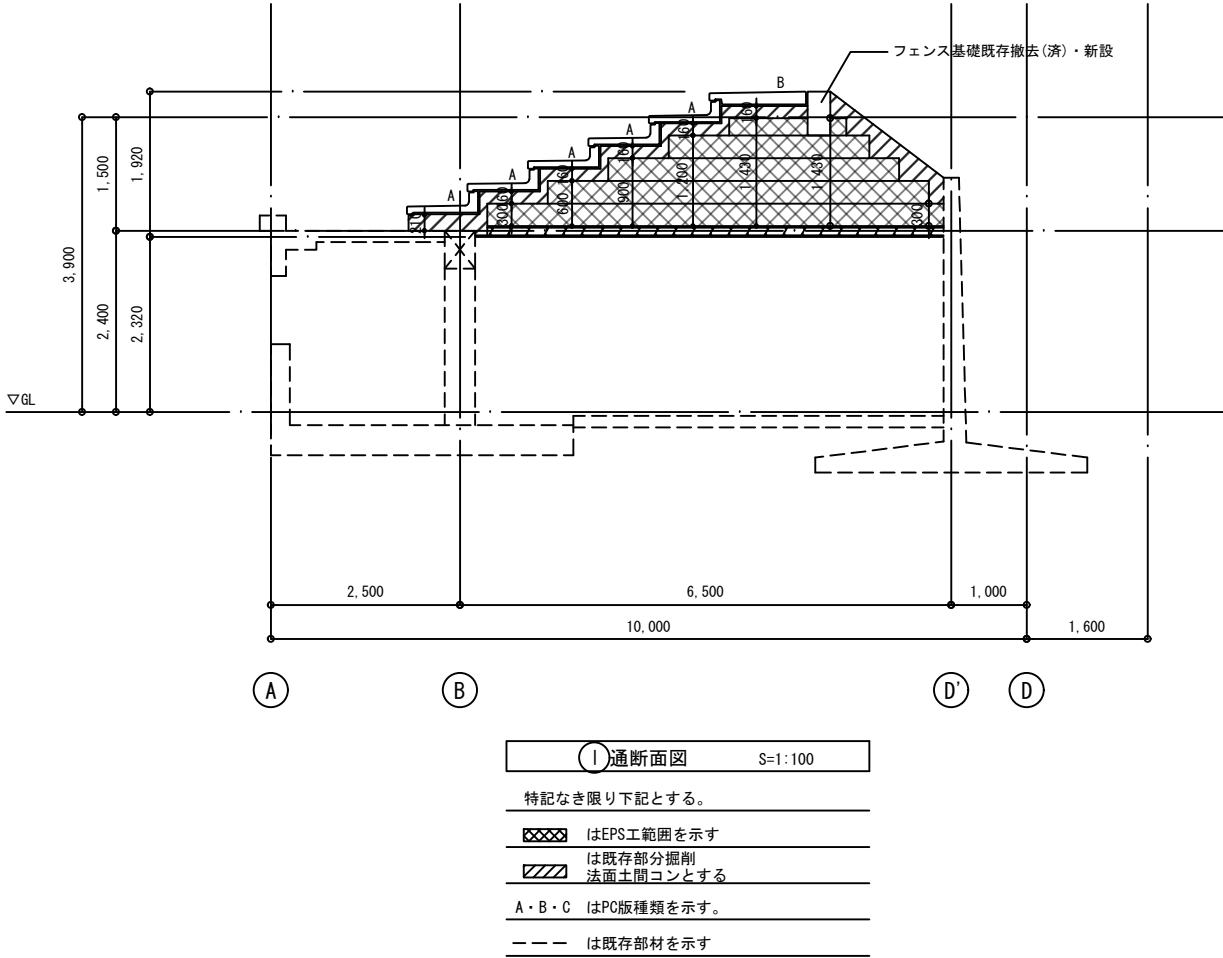
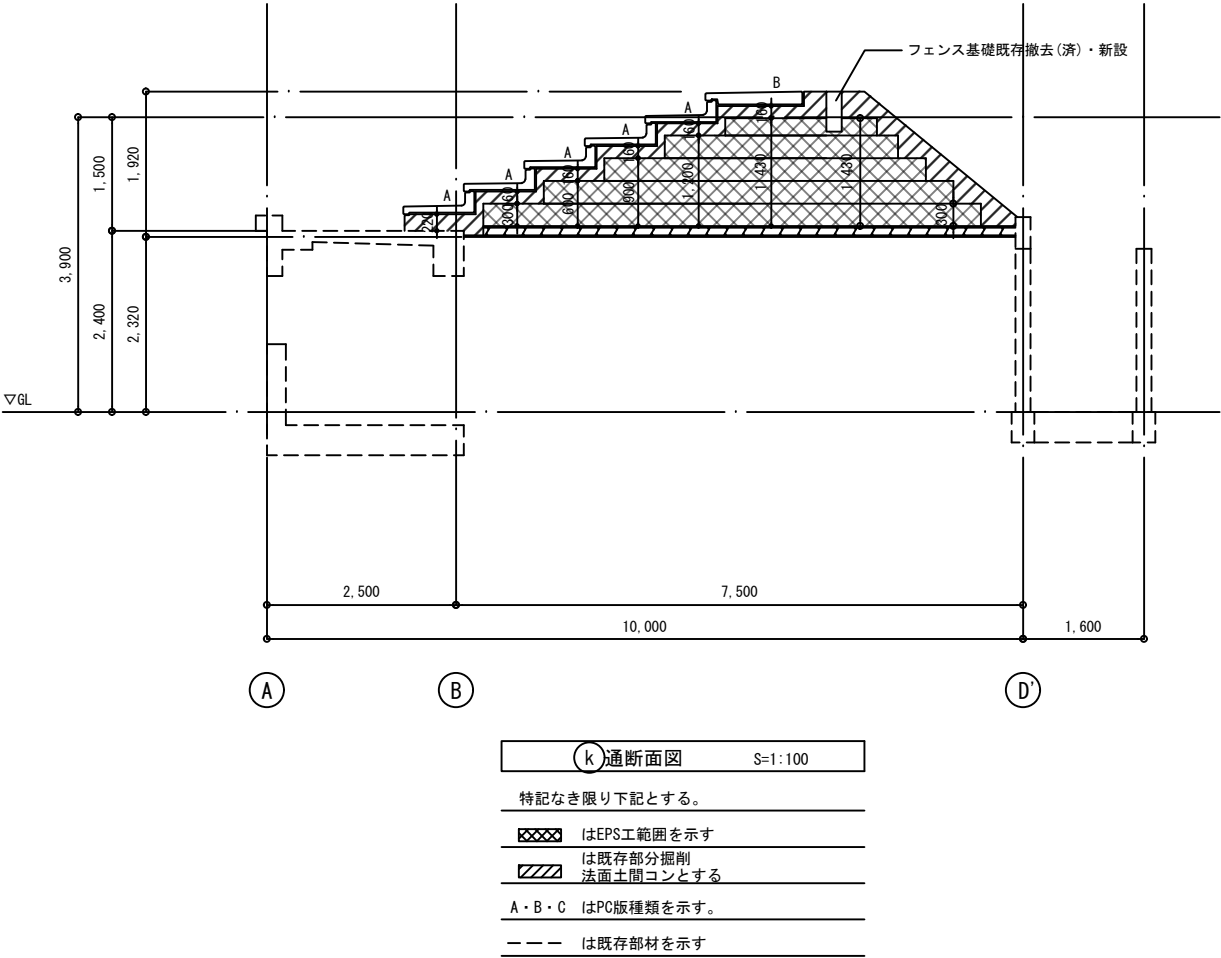
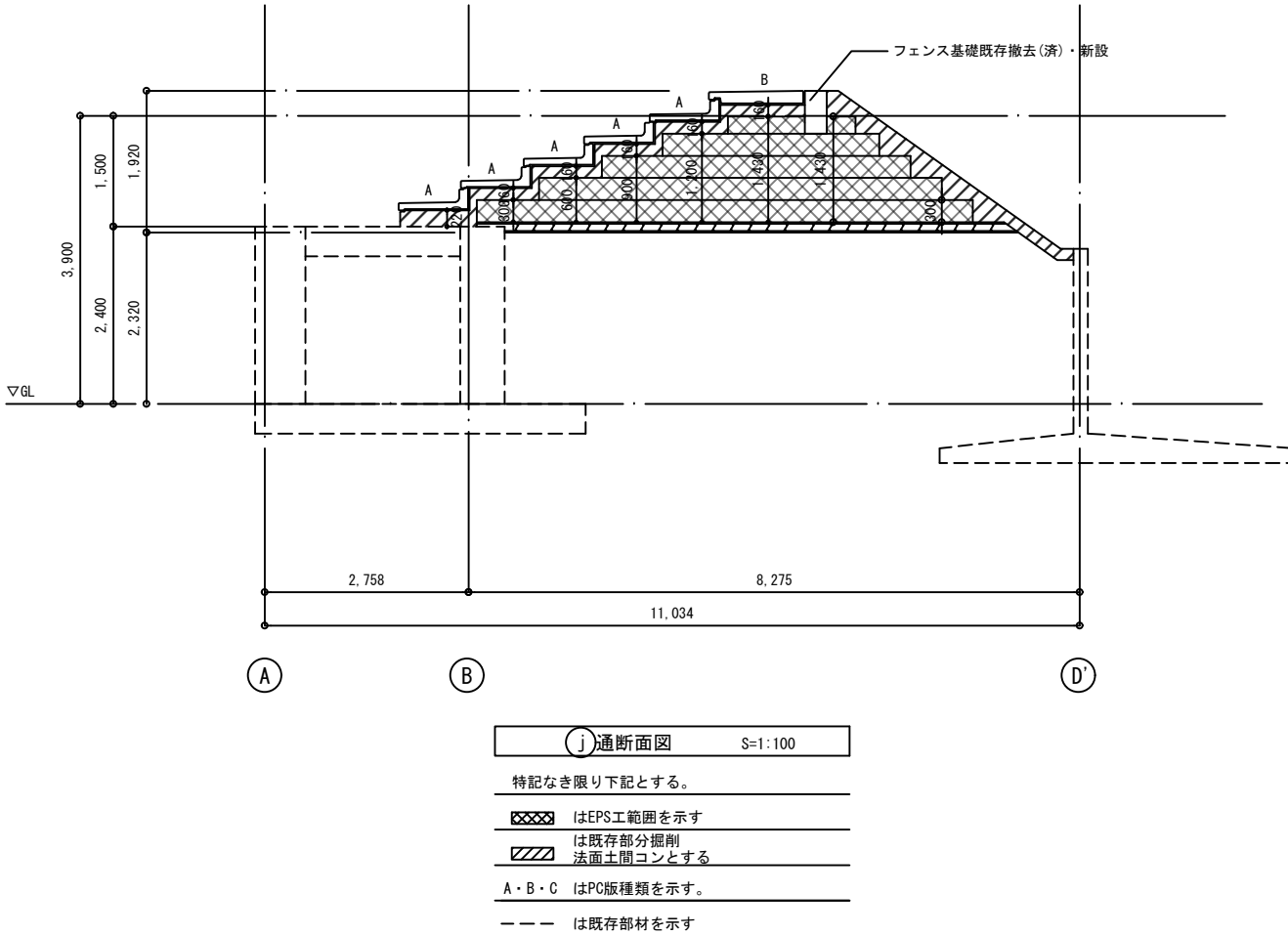
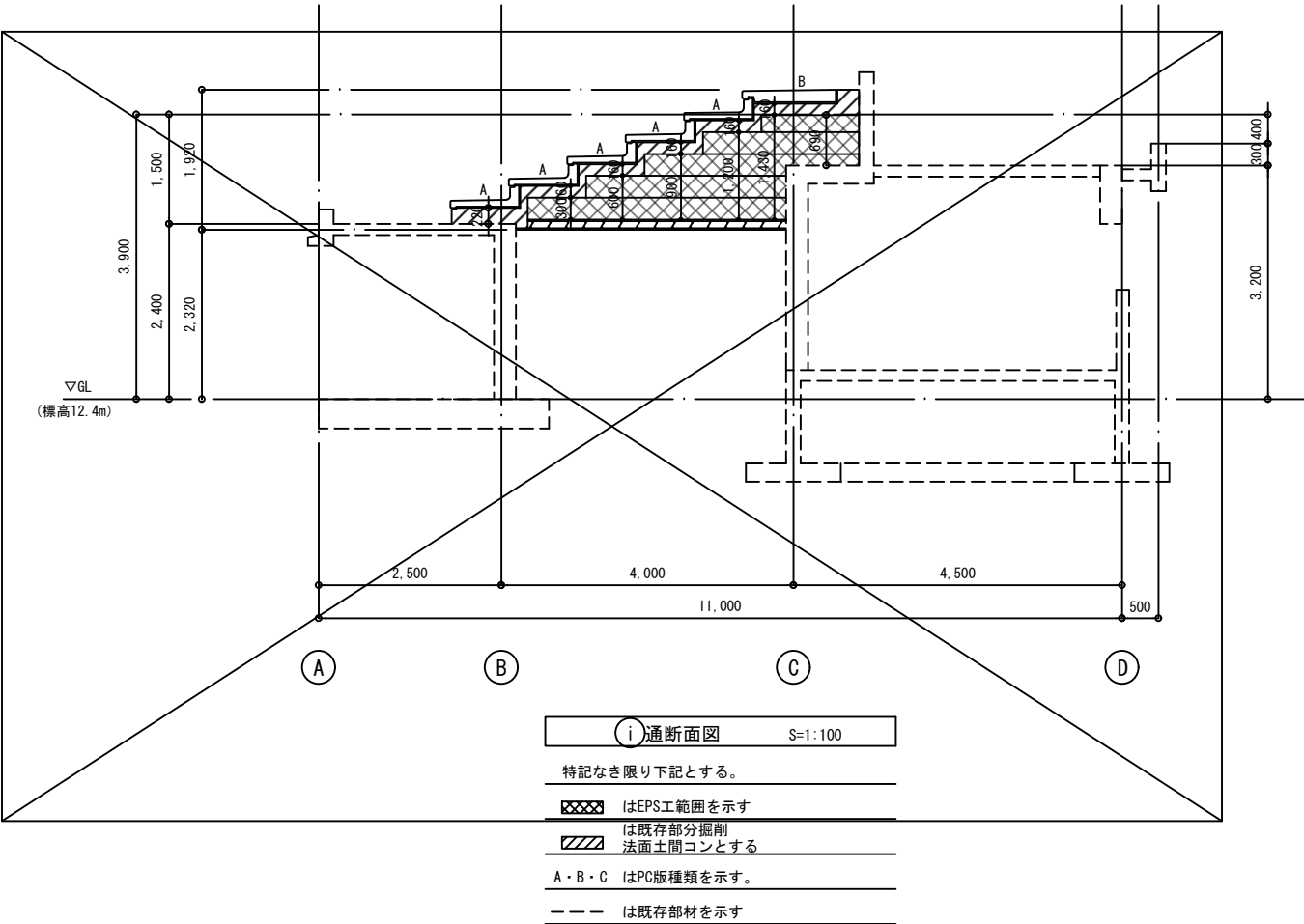
調査目的及び調査対象

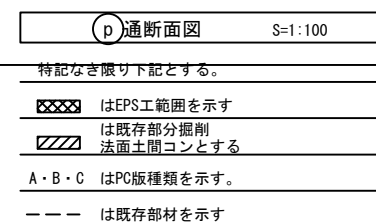
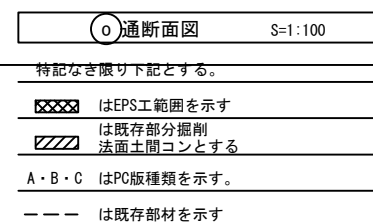
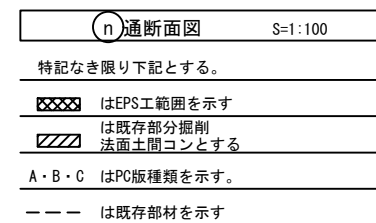
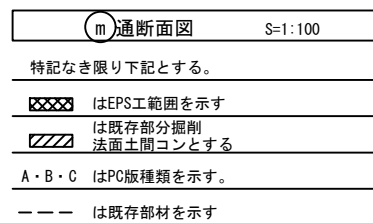
ボーリング名	B-3		調査位置	宮城県角田市枝野青木地内		北緯	
発注機関	角田市		調査期間	令和07年10月20日～令和07年10月 日		東経	
調査業者名	(株)国際開発コンサルタンツ		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高 12.60 m		角 度	方 位	地盤勾配	使用機種	エンジン	
総削孔長 20.45 m		度	位			ポンプ	

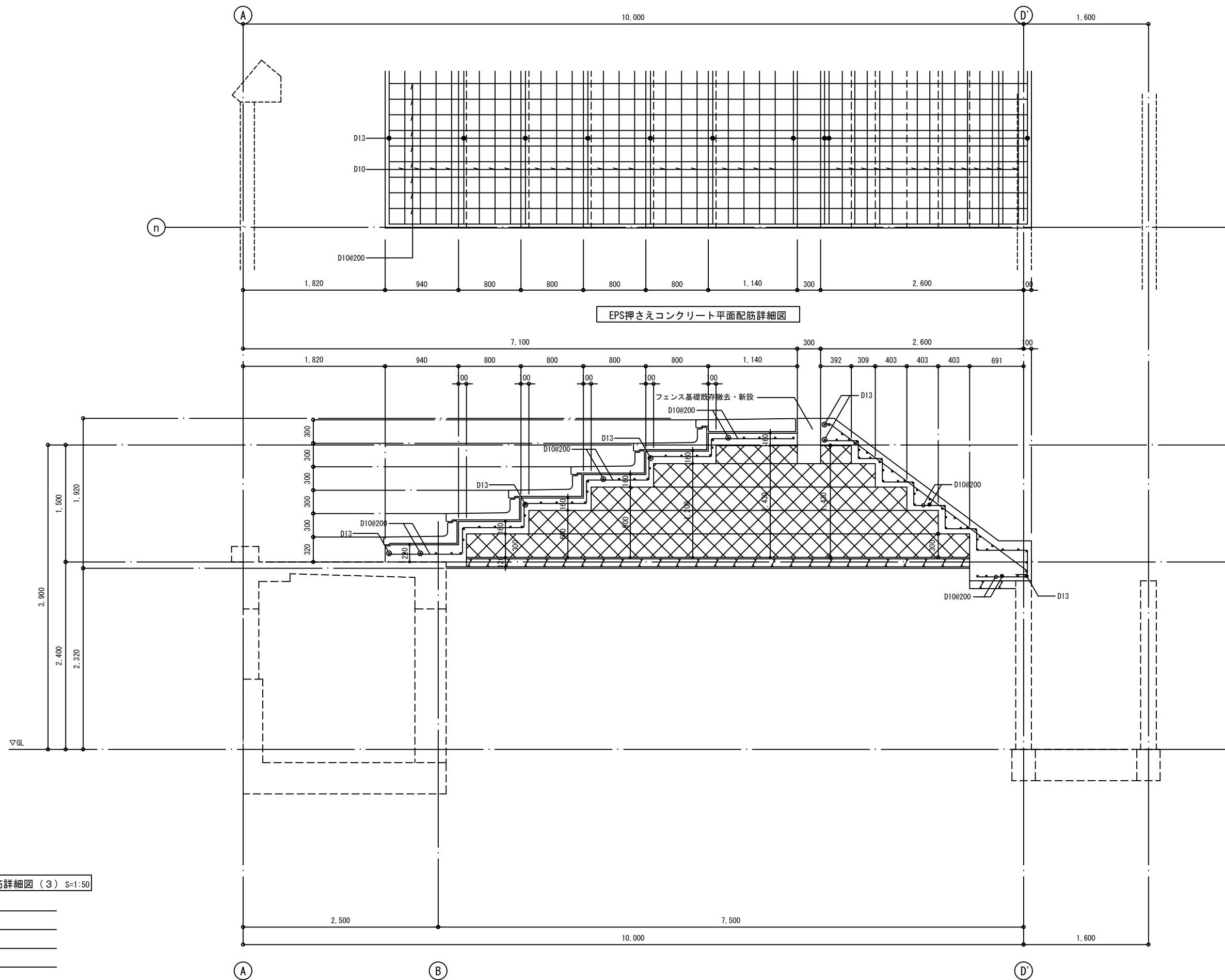


ボーリング調査位置図



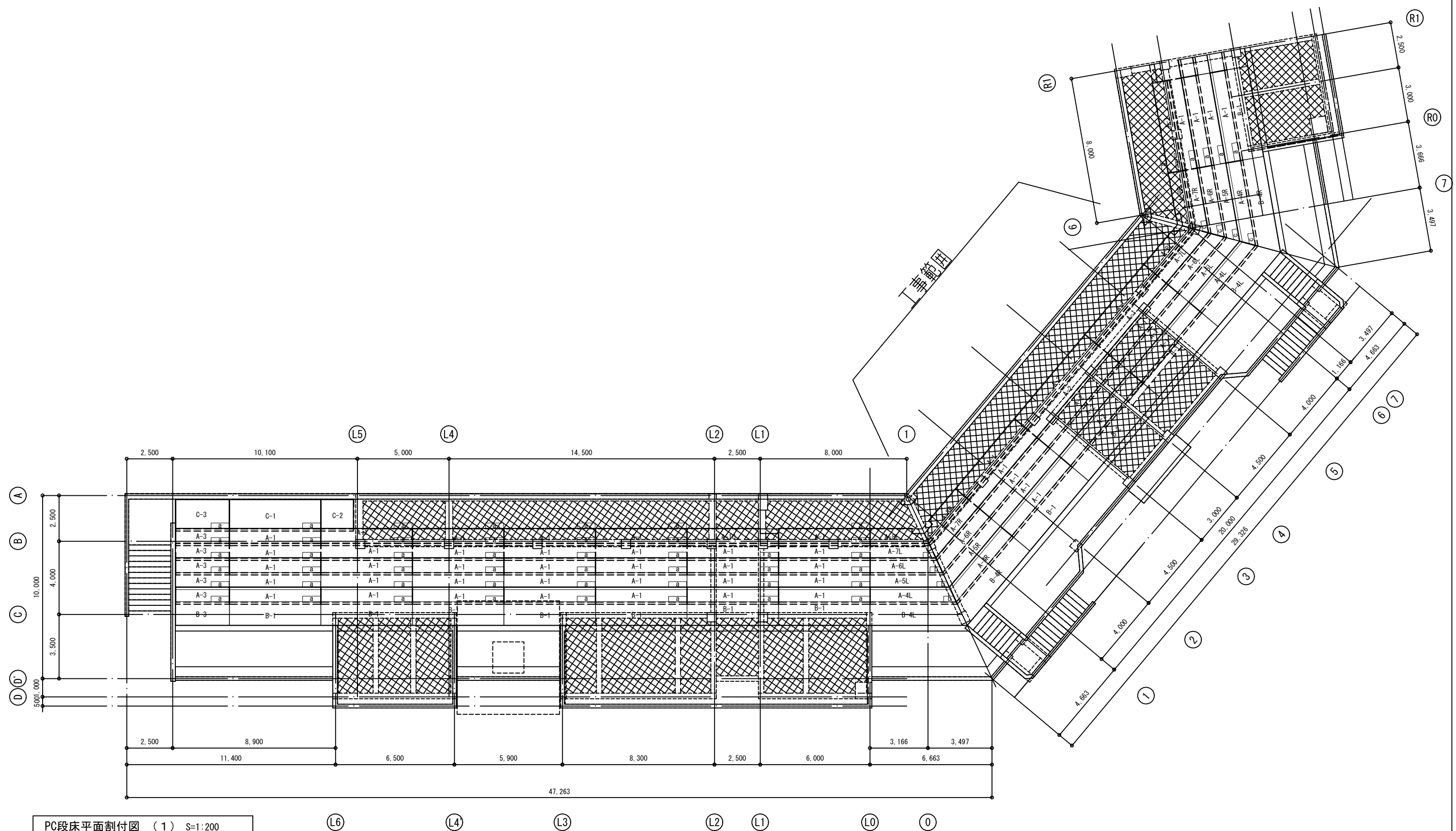






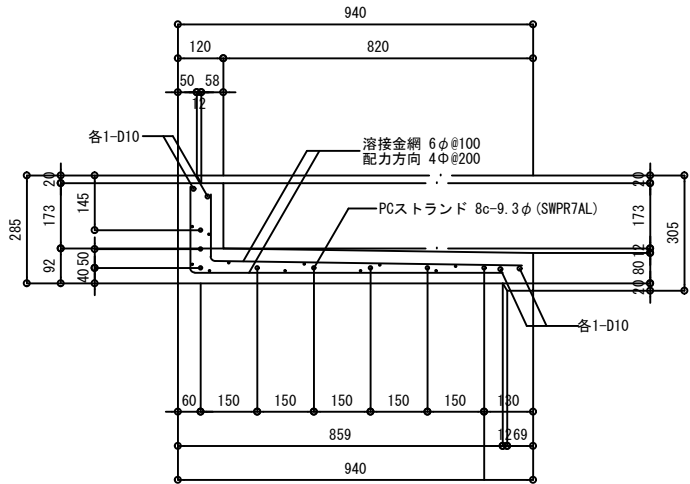
EPS押さえコンクリート配筋詳細図（3） S=1:50

- 特記なき限り下記とする。
- はEPS工範囲を示す
- は既存部材を示す

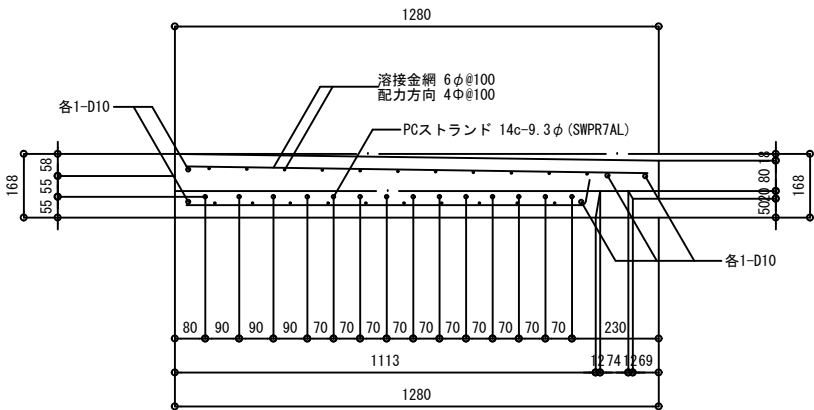


PC段床版・踏み石リスト S=1:20

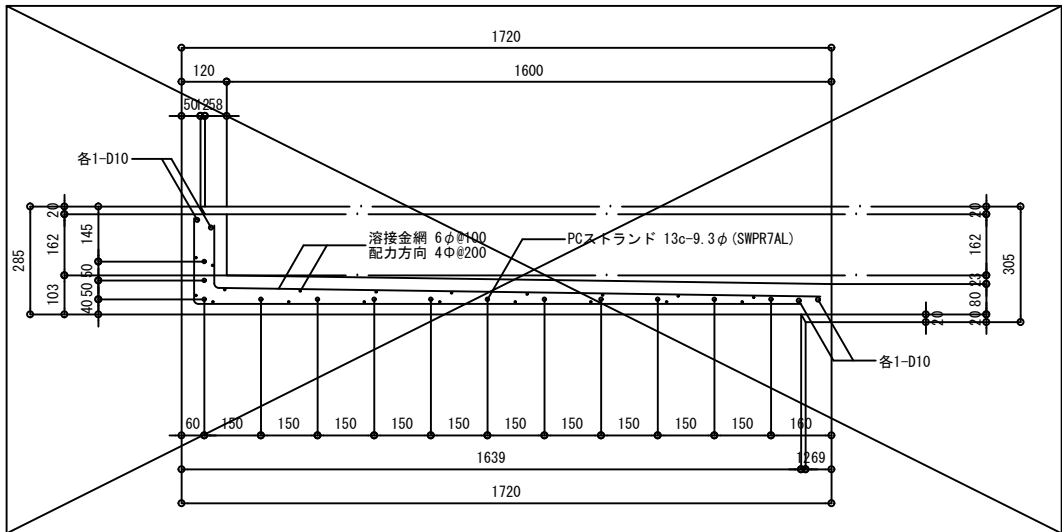
A-type 2.62kN/m



B-type 4.85kN/m



C-type 4.52kN/m



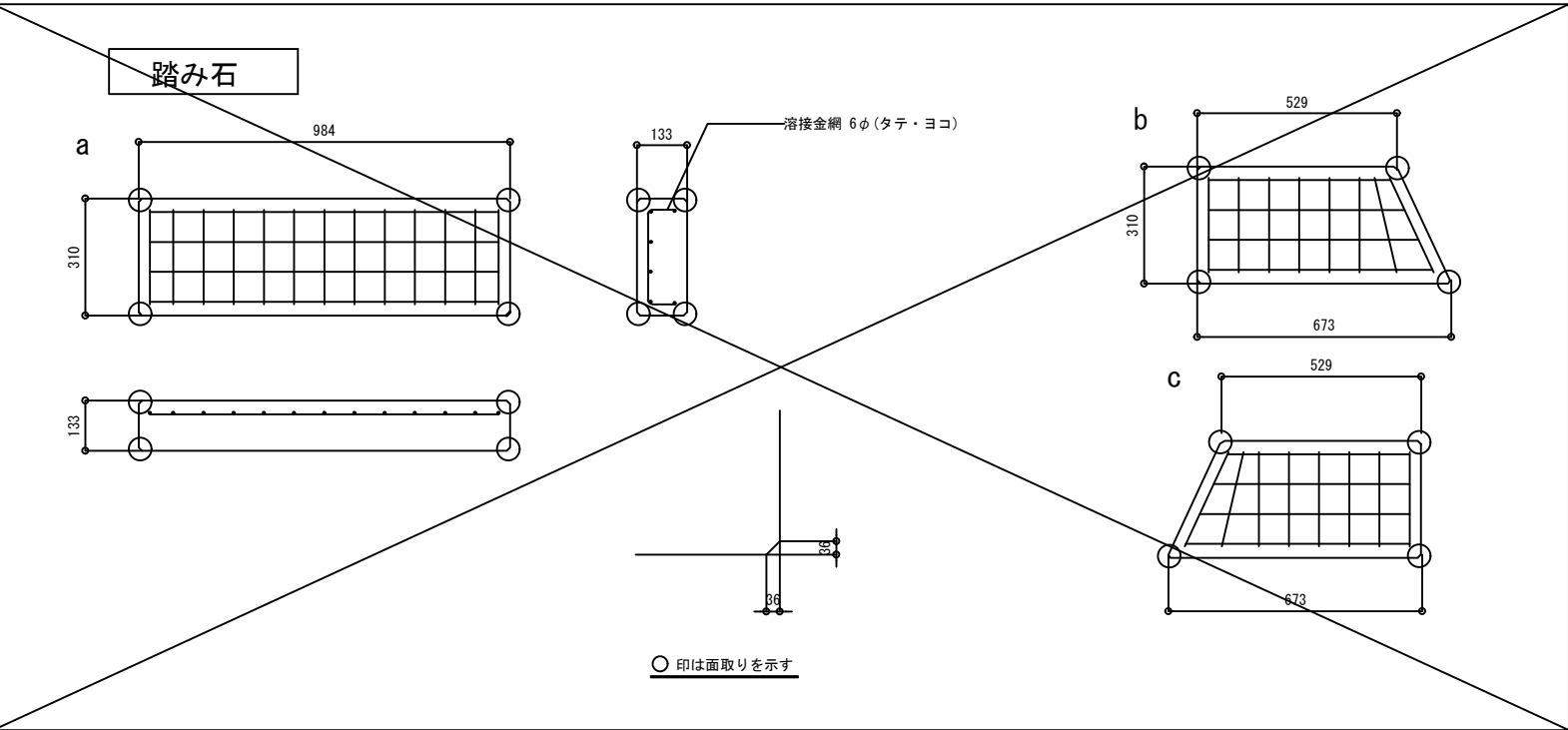
一般事項											
1. コンクリート											
a) コンクリート	<table><tr><td>設計基準強度</td><td>60 N/mm²</td></tr><tr><td>導入時圧縮強度</td><td>30 N/mm²</td></tr></table>	設計基準強度	60 N/mm ²	導入時圧縮強度	30 N/mm ²						
設計基準強度	60 N/mm ²										
導入時圧縮強度	30 N/mm ²										
2. 材 料											
a) 鉄 筋	SD295、溶接金網										
b) PC鋼材	<table><tr><td>PC鋼より線 SWPR7AL 9.3φ</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">[JISG3536規格品]</td></tr><tr><td>引張荷重 (P_u)</td><td>88.8 kN/ケーブル</td></tr><tr><td>降伏荷重 (P_y)</td><td>75.5 kN/ケーブル</td></tr><tr><td>定着完了時緊張力 (P_t)</td><td>60.4 kN/ケーブル</td></tr></table>	PC鋼より線 SWPR7AL 9.3φ		[JISG3536規格品]		引張荷重 (P _u)	88.8 kN/ケーブル	降伏荷重 (P _y)	75.5 kN/ケーブル	定着完了時緊張力 (P _t)	60.4 kN/ケーブル
PC鋼より線 SWPR7AL 9.3φ											
[JISG3536規格品]											
引張荷重 (P _u)	88.8 kN/ケーブル										
降伏荷重 (P _y)	75.5 kN/ケーブル										
定着完了時緊張力 (P _t)	60.4 kN/ケーブル										
c) セメント	セメントの種類は下記に適合するものとする。 ・JIS R5210 (ポルトランドセメント)										
d) 骨 材	骨材はJASS5に準ずるものを用いる。										
e) 混和材料	混和材料は、JASS5に準ずるものを用いる。										
3. 緊 張 力											
a) 設計緊張力	P _o = 60.4 kN/ケーブル										
b) 作業緊張力	各種補正に依り決定する。										
c) プレストレッシング方式	プレテンション方式										
4. 仕上げ											
a) 型枠面：素地											
b) 打設面：金ゴテ仕上げ											

段床版部材数量表 ※製作前に現地計測を行い数値を決定する

符号	L1	L2	数量
A-1	4,985	4,985	10
A-1C	4,985	4,985	0
A-2	5,985	5,985	5
A-3	2,922	2,922	0
A-4	4,316	4,754	2
A-5	3,943	4,381	2
A-6	3,570	4,008	2
A-7	3,197	3,635	2
A-8	2,824	3,262	2
B-1	4,985	4,985	2
B-2	5,985	5,985	1
B-3	2,922	2,922	0
B-4	4,689	5,286	2
C-1	4,985	4,985	0
C-2	1,772	1,772	0
C-3	2,922	2,922	0
Σ			144

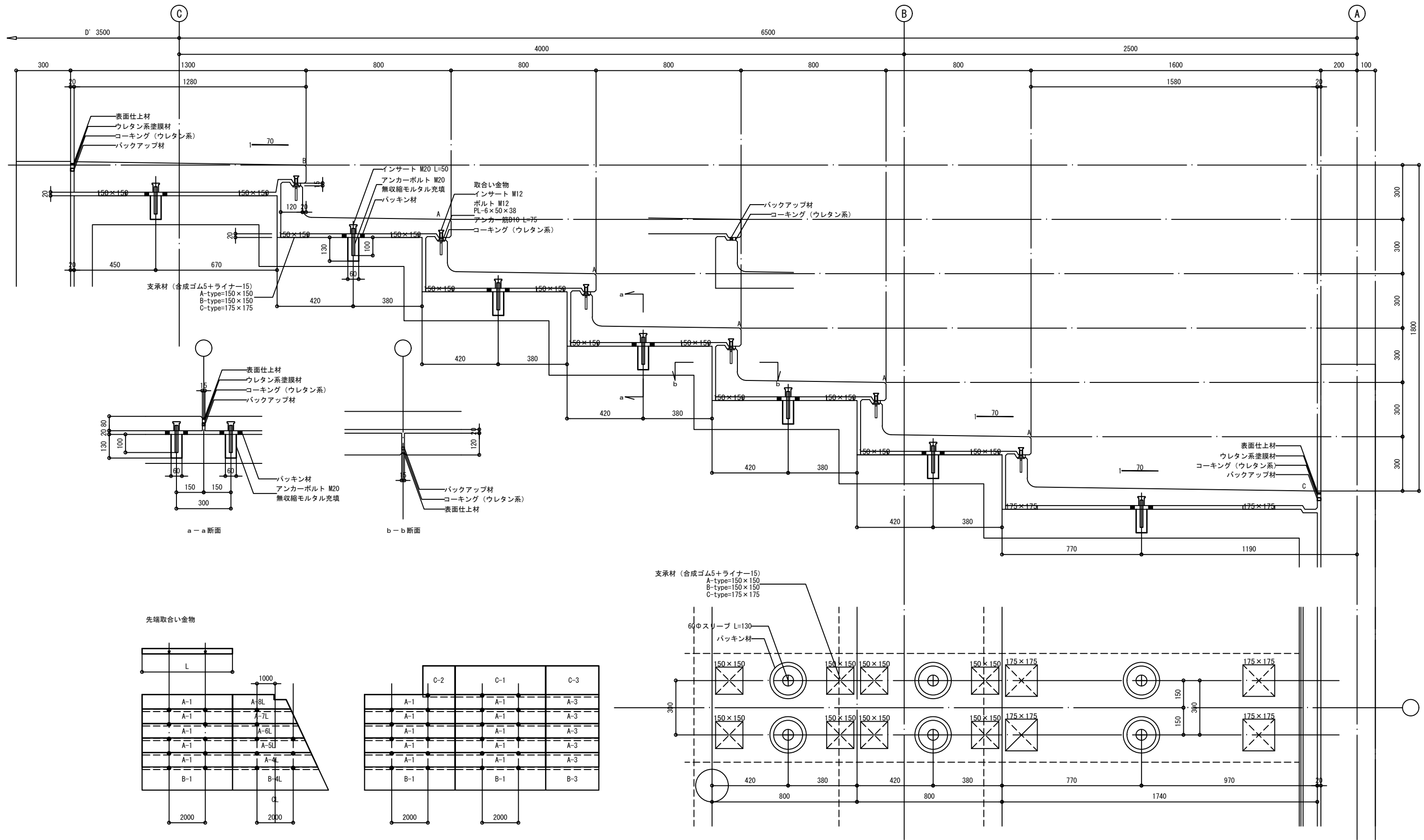
踏石部材数量表 ※施工図面にて詳細寸法を決定する

符号	L1	L2	w	h	数量
a	984	984	310	133	98
b	529	673	310	133	8
c	529	673	310	133	8
Σ					114



PC段床版取合い詳細図

S=1:20



株式会社国際開発コンサルタンツ仙台支店
一級建築士事務所 宮城県知事登録 第25510019号
一級建築士 第320276号 西沢 有美
宮城県仙台市青葉区一番町1-5-25 TEL: (022) 225-6201

校閲者

作成者

校閲

作成

作成年月日

縮尺

1:20

工事名称

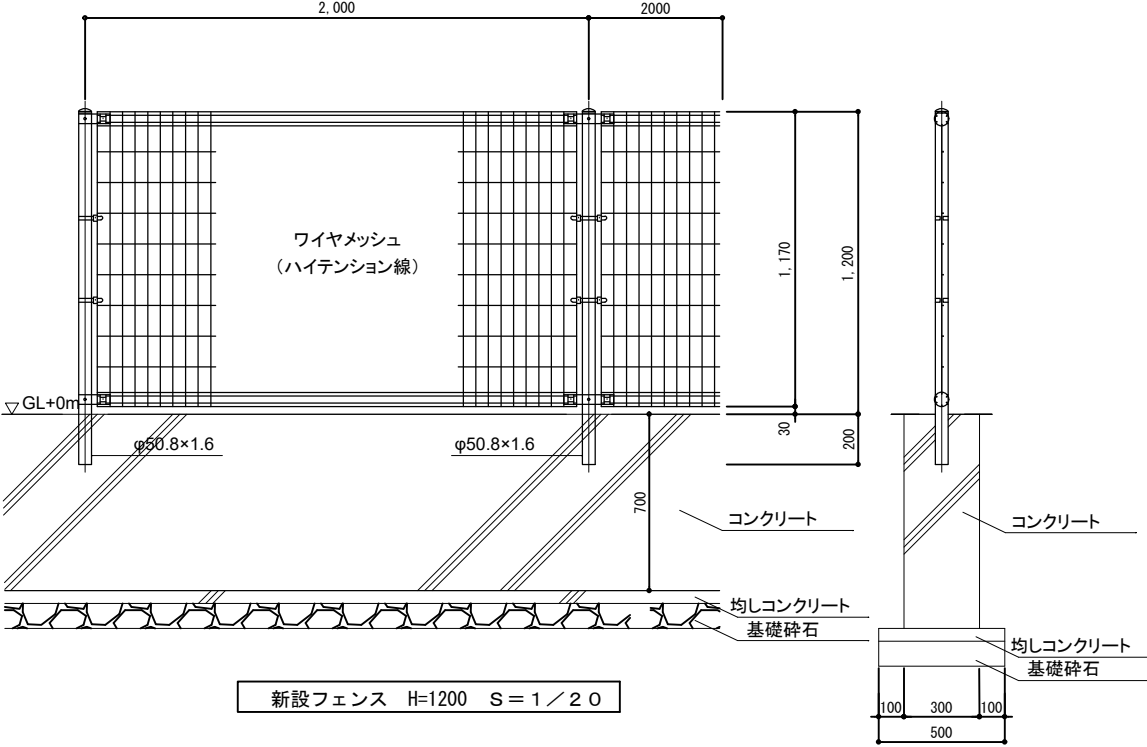
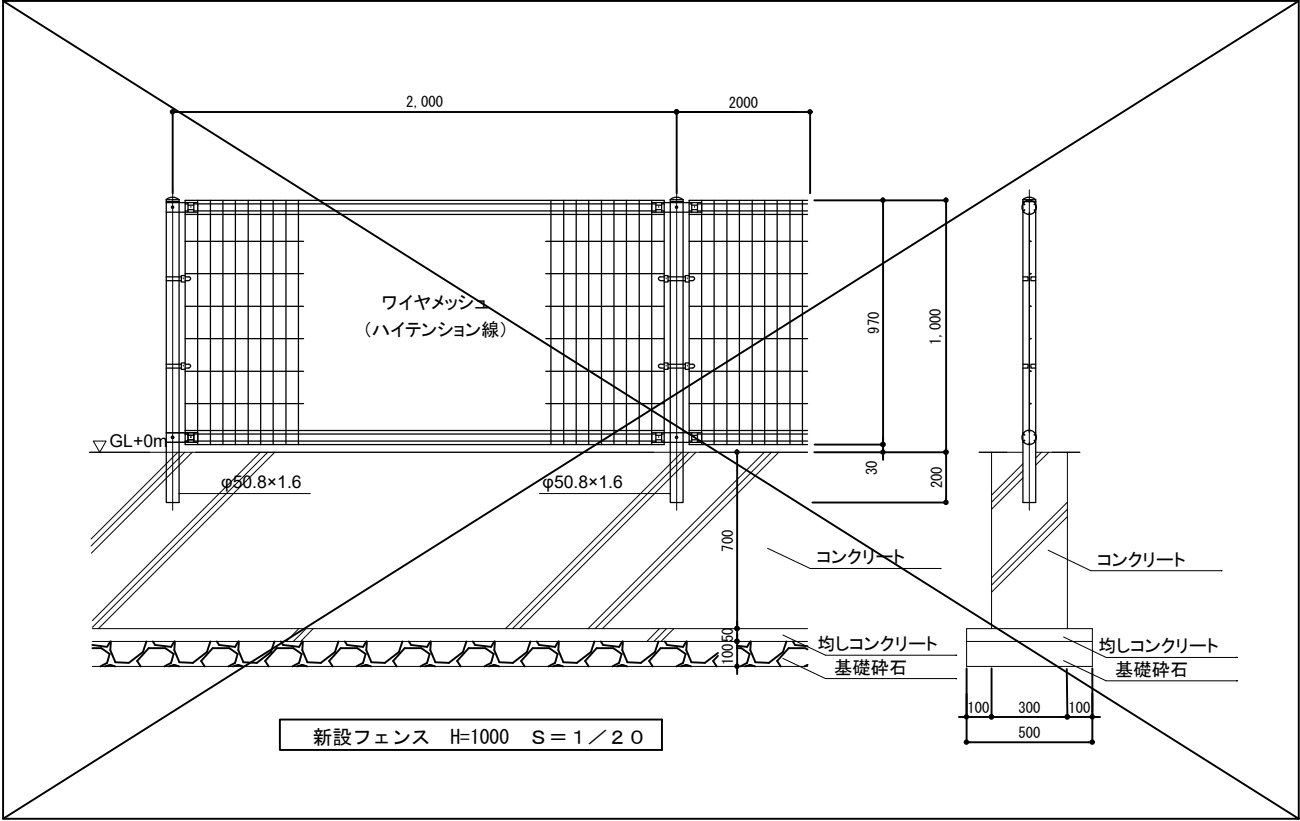
図面名称

令和7年度(緑)野球場スタンド改修工事(その2)

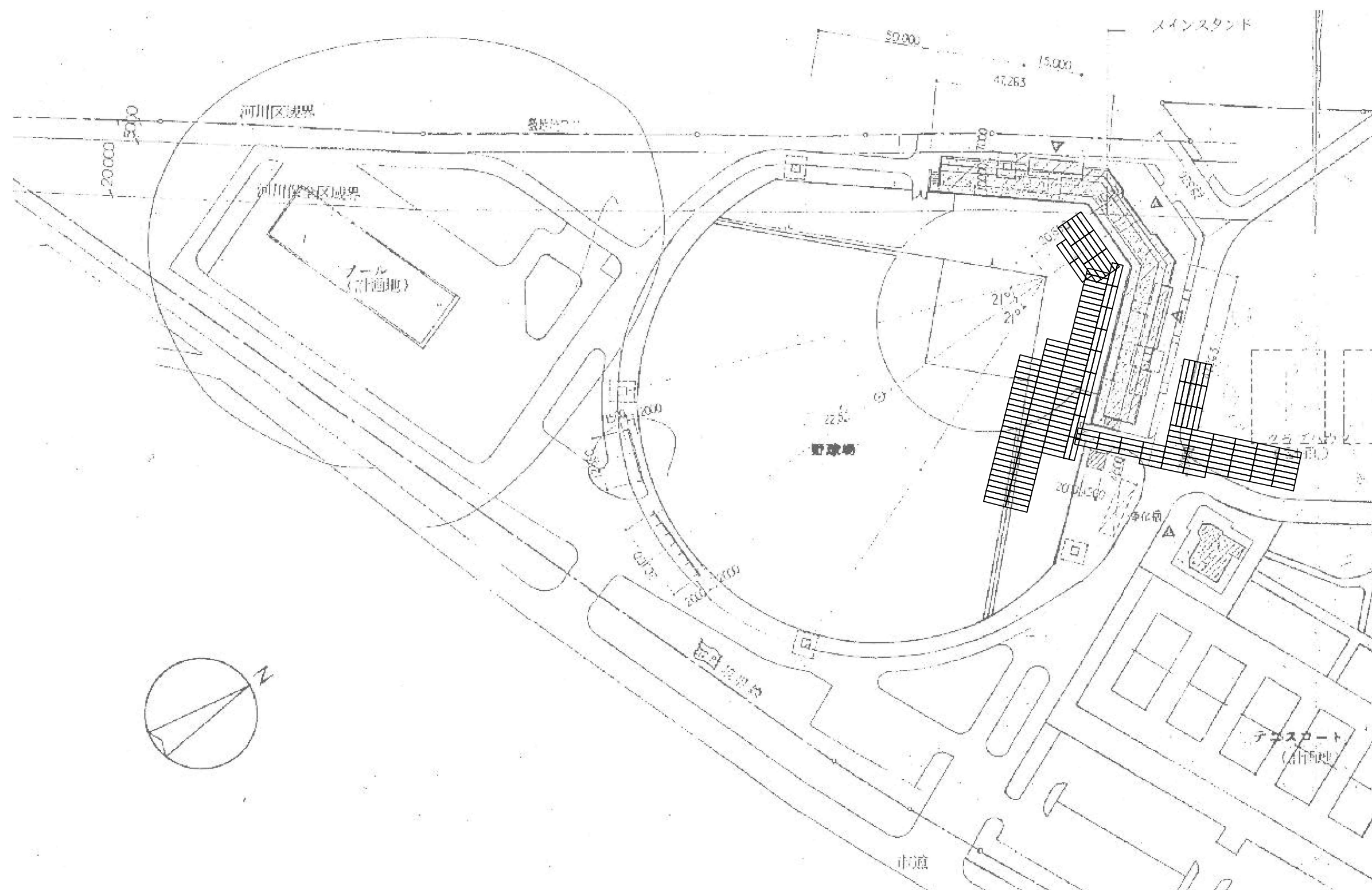
PC段床版取合い詳細図

図面
番号

117

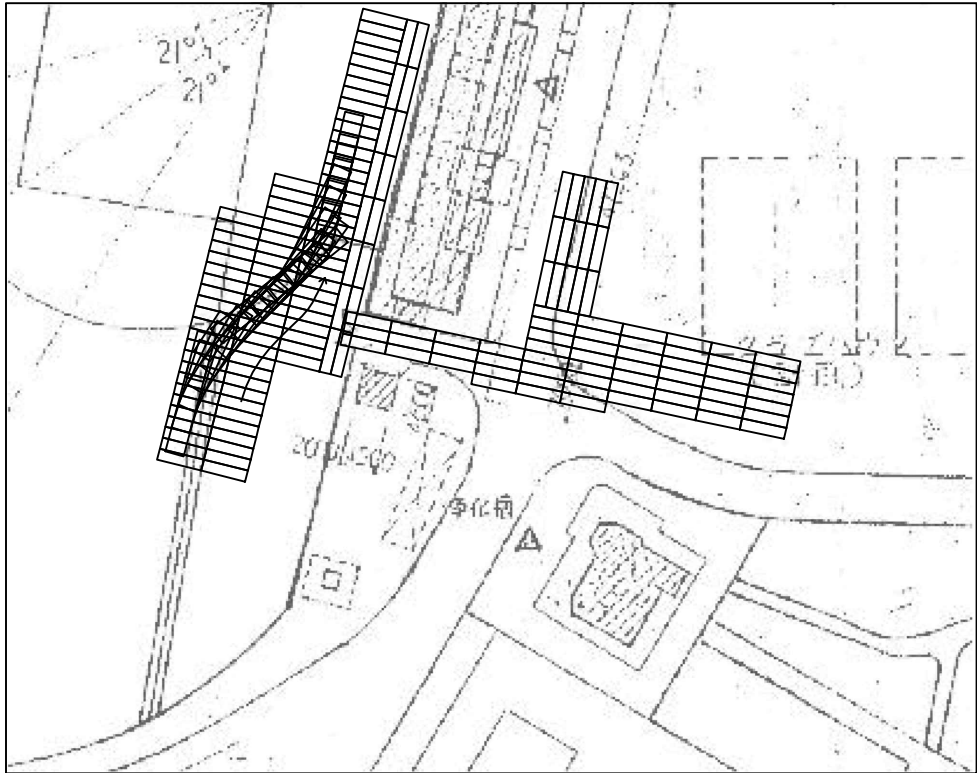
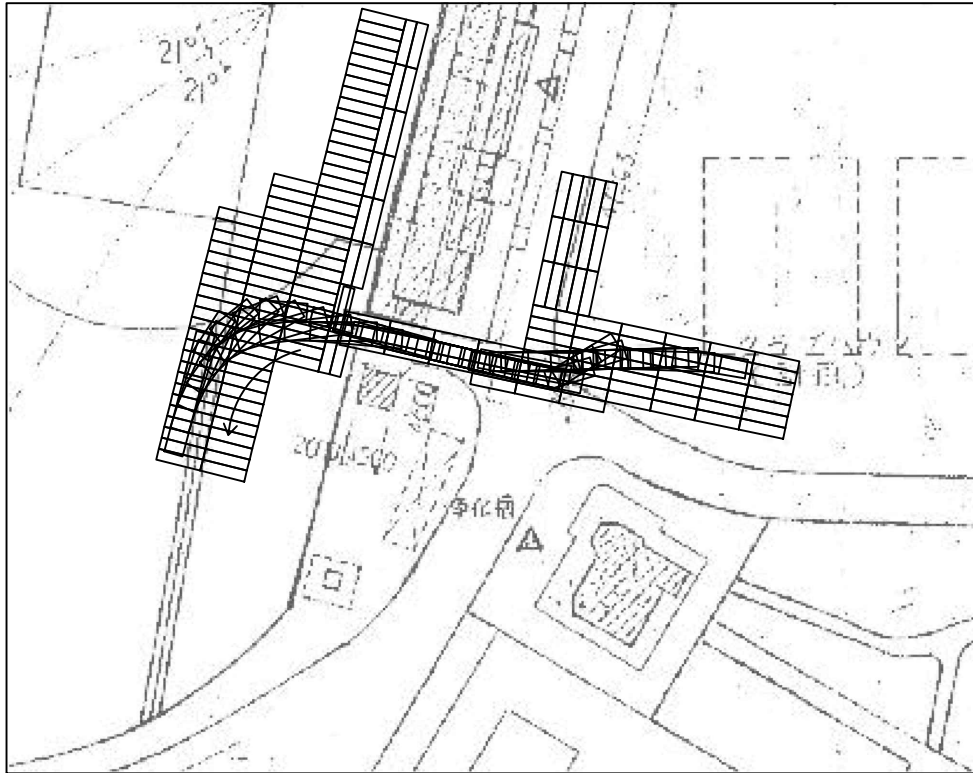


敷鉄板 敷設検討
敷き 鉄板数量：221枚

[illegible]

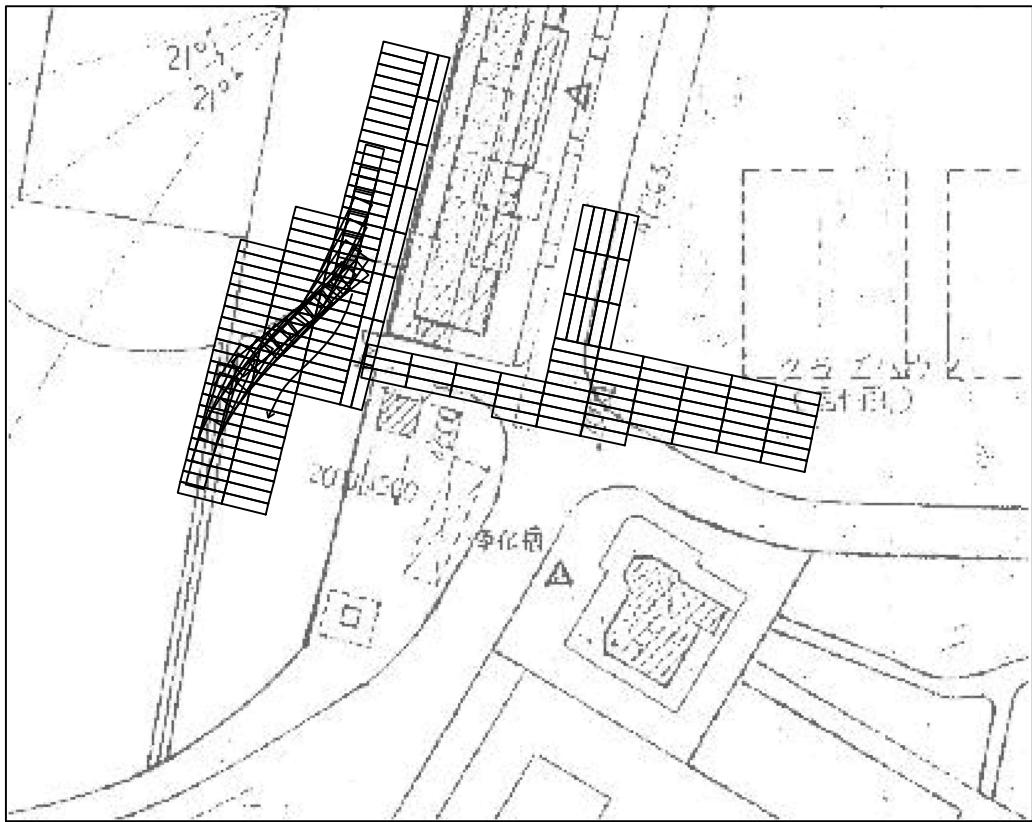
搬入時

2

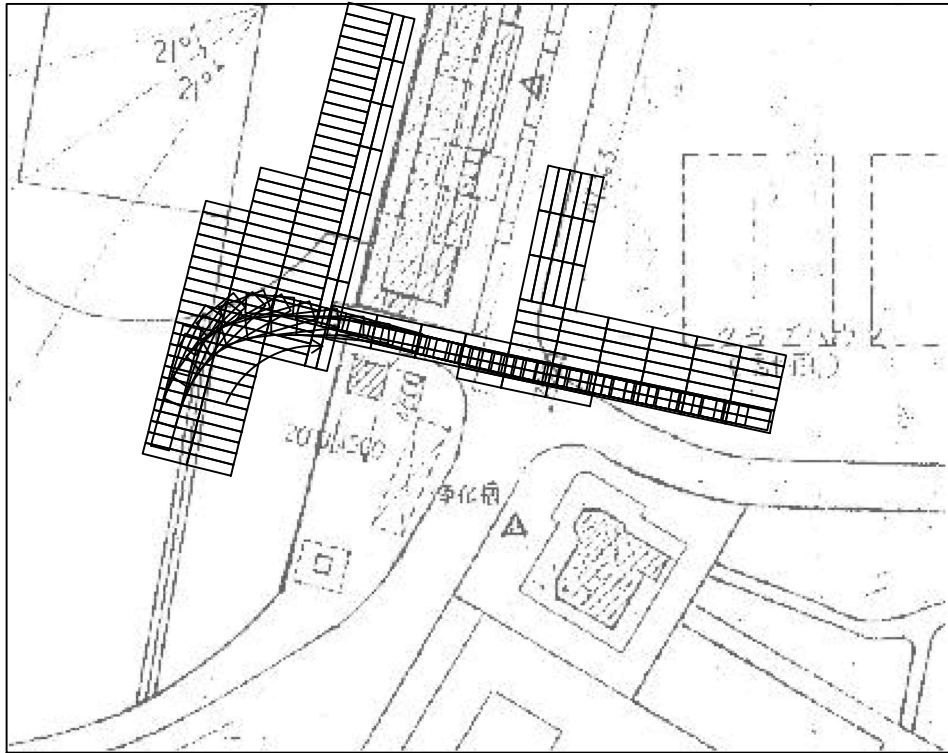


搬出時

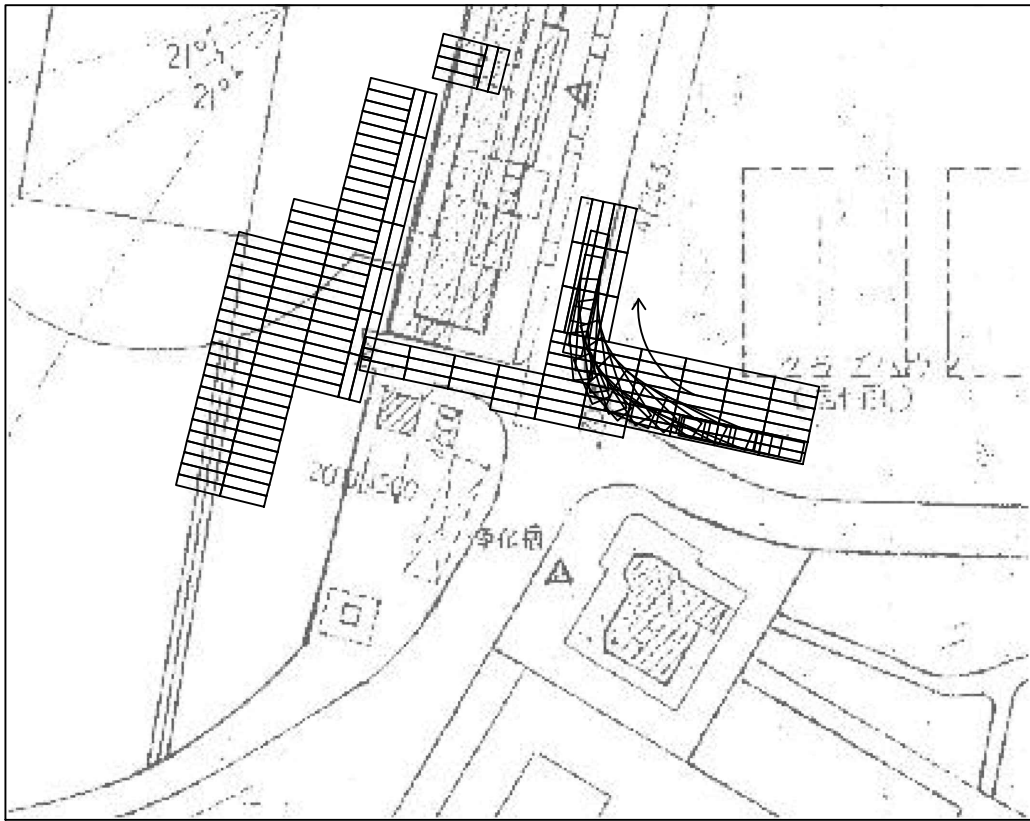
1



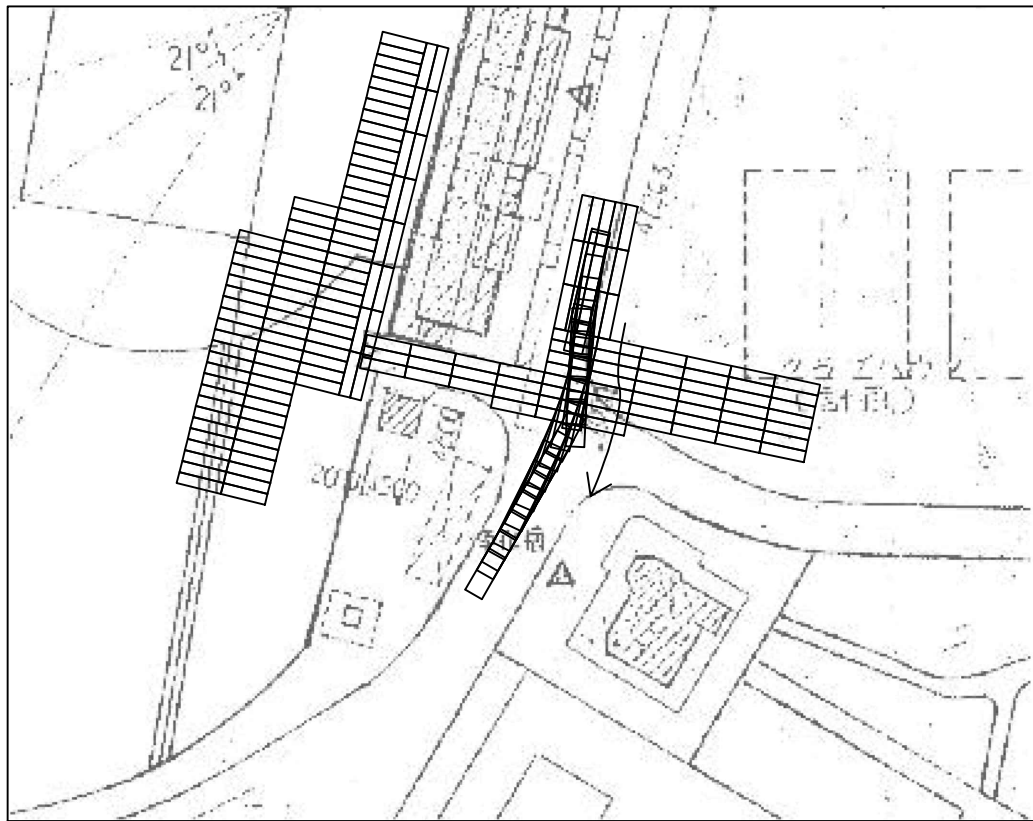
2



3



4



クレーン仕様	
1. 使用クレーン	50 t ラフタークレーン (GR500N)
2. ブーム長さ	37.0m
3. 作業半径	18.0m
4. 定格総荷重	4.15 t
5. 安全係数	0.85
6. 許容荷重	3.5 t (4×5)
7. フック重量	0.34 t (35tフック)
8. 吊治具重量	0.2 t
7. 吊り可能部材重量	2.9 t (6-7-8)

部材重量 (MAX)
A版: 1.6t
B版: 2.9t
C版: 2.3t

